

Canon

SPEEDLITE
430EX III-RT

SPEEDLITE
430EX III



使用説明書

はじめに

キャノンスピードライト430EX III-RT/430EX IIIは、E-TTL II/E-TTL自動調光に対応したEOS用外部ストロボです。

| ワイヤレスストロボ撮影 | | 430EX III-RT | 430EX III |
|-------------|-------|--------------|-----------|
| 電波通信ワイヤレス機能 | センター | ○ | — |
| | レシーバー | ○ | — |
| 光通信ワイヤレス機能 | センター | — | — |
| | レシーバー | ○ | ○ |

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（8～9ページ）をお読みください。

カメラの使用説明書もあわせてお読みください

ご使用になる前に、本書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

カメラとの組み合わせについて

● EOSデジタルカメラ（Aタイプカメラ）との組み合わせ

「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御によるストロボ撮影を行うことができます。

● EOSフィルムカメラとの組み合わせ

● E-TTL II/E-TTL自動調光方式のカメラ（Aタイプカメラ）

「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御によるストロボ撮影を行うことができます。

● TTL自動調光方式のカメラ（Bタイプカメラ）

102ページを参照してください。


* 本書では、Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。

連続発光時のご注意

ストロボを使用した連続撮影や、マルチ発光撮影、モデリング発光等では、ストロボが連続して発光します。ストロボの連続発光（明るい色の壁などからの反射光を含みます）による視覚刺激によって、発作などの症状が出る場合があります。症状が出た場合は、ストロボの使用を直ちに中止してください。











章目次

| | | |
|---|---|----|
| | はじめに | 2 |
| 1 | 撮影前の準備と簡単な撮影 ストロボ撮影の準備と基本的なストロボ撮影 | 15 |
| 2 | ストロボ撮影応用編 ストロボ撮影の機能を活用した応用的なストロボ撮影 | 23 |
| 3 | カメラ操作によるストロボの機能設定 カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法 | 39 |
| 4 | 電波通信ワイヤレスストロボ撮影 電波通信によるワイヤレス（センドー/レシーバー）ストロボ撮影 | 45 |
| 5 | 光通信ワイヤレスストロボ撮影 光通信によるワイヤレス（レシーバー）ストロボ撮影 | 71 |
| 6 | ストロボのカスタマイズ カスタム機能、パーソナル機能によるカスタマイズ | 79 |
| 7 | 資料 システム図、よくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせ | 89 |




 電波通信機能を備えていない「スピードライト430EX III」使用時は、4章の電波通信ワイヤレスストロボ撮影はできません。レシーバー機能を使用した光通信ワイヤレスストロボ撮影を行うときは、5章を参照してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

-  : 選択ダイヤルを示しています。
- <ZOOM> <MODE>** :  十字キーの上下左右ボタンを示しています。
-   : 選択/設定ボタンを示しています。
-  : 選択/設定ボタンを示しています。
-  /  : 操作ボタンから指を離したあと、ボタンを押した状態が約12秒/16秒間保持されることを示しています。
- (p. * *) : 参照ページを示しています。
-  : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
-  : 補足説明や補足事項を記載しています。
-  **応用** : ページタイトル右の **応用** は、カメラの撮影モードが **<P/Tv/Av/M/B>** (応用撮影ゾーン) のときに機能することを示しています。

操作説明の前提について

- ストロボとカメラの電源が入っていることを前提に説明しています。
- 本文中のボタン、ダイヤル、マークなどは、ストロボとカメラに使われている絵文字を使用しています。
- 機能を設定するときの選択操作は、 を回して選ぶ操作を基本に説明しています。 十字キーの上下左右 (**<ZOOM> <MODE> <Zoom in> <Zoom out>** ボタン) を押して選ぶこともできます。
- 機能の設定を終了するときは、 ボタンを押します。
- ストロボのカスタム機能/パーソナル機能、カメラのメニュー機能/カスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 各種数値は、単3形アルカリ乾電池を4本使用し、当社試験基準で測定した値です。
- スピードライト430EX III-RTのイラストを使って説明しています。


目次

| | |
|--------------------|----|
| はじめに | 2 |
| 章目次..... | 3 |
| 本使用説明書の表記について..... | 4 |
| 機能目次..... | 7 |
| 安全上のご注意..... | 8 |
| 各部の名称..... | 10 |
| 付属アクセサリー..... | 14 |

| | |
|-----------------------------------|-----------|
| 1 撮影前の準備と簡単な撮影 | 15 |
| 電池を入れる..... | 16 |
| カメラに取り付ける／取り外す..... | 17 |
| 電源を入れる..... | 18 |
| E-TTL : 全自動ストロボ撮影..... | 20 |
| 撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影..... | 21 |

| | |
|---------------------------|-----------|
| 2 ストロボ撮影応用編 | 23 |
| 🔧 調光補正..... | 24 |
| FEL: FE ロック..... | 25 |
| 🔧 ハイスピードシンクロ..... | 26 |
| ▶▶ 後幕シンクロ..... | 27 |
| 🔧 バウンス..... | 28 |
| キャッチライト撮影..... | 29 |
| 🔧 バウンスアダプターについて..... | 30 |
| Zoom : 照射角の設定..... | 32 |
| ワイドパネル..... | 33 |
| M : マニュアル発光..... | 34 |
| モデリング発光..... | 36 |
| 🔧 カラーフィルター..... | 37 |
| ストロボ設定初期化..... | 38 |

| | |
|----------------------------|-----------|
| 3 カメラ操作によるストロボの機能設定 | 39 |
| カメラのメニュー画面からのストロボ制御..... | 40 |

| | | |
|----------|---|-----------|
| 4 | 電波通信ワイヤレスストロボ撮影 | 45 |
| | ☎ 電波通信ワイヤレスストロボ撮影 | 46 |
| | ワイヤレス設定 | 50 |
| | ETTL : 全自動ワイヤレスストロボ撮影 | 55 |
| | A:B : 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影 | 59 |
| | M : 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影 | 62 |
| | Gr : グループごとに発光モードを設定した撮影 | 63 |
| | レシーバーからのテスト発光／モデリング発光 | 65 |
| | レシーバーからのリモートリリース | 66 |
| | 電波通信による連動撮影 | 67 |
| 5 | 光通信ワイヤレスストロボ撮影 | 71 |
| | ✈ 光通信ワイヤレスストロボ撮影 | 72 |
| | ワイヤレス設定 | 73 |
| | ETTL : 全自動ワイヤレスストロボ撮影 | 75 |
| |  レシーバーで設定するマニュアル発光 | 78 |
| 6 | ストロボのカスタマイズ | 79 |
| | C.Fn / P.Fn : カスタム／パーソナル機能の設定方法 | 80 |
| | C.Fn : カスタム機能で変更できる内容 | 83 |
| | P.Fn : パーソナル機能で変更できる内容 | 86 |
| 7 | 資料 | 89 |
| | 430EX III-RT/430EX III のシステム | 90 |
| | ☹ 温度上昇による発光制限について | 92 |
| | 故障かな？と思ったら | 94 |
| | 主な仕様 | 98 |
| | Bタイプカメラとの組み合わせ | 102 |
| | 電波通信ワイヤレス機能について | 103 |
| | 索引 | 106 |

機能目次

電源

- 電池 → p.16
- 発光間隔/回数 → p.16
- 電源ON/OFF → p.18
- 充電完了 → p.18
- クイック発光 → p.18
- オートパワーオフ → p.18

操作

- 取り付け/取り外し → p.17
- ロック機能 → p.19
- 表示パネル照明 → p.19

通常撮影

- 全自動 (E-TTL) → p.20
- 撮影モード別自動調光 → p.21
- マニュアル発光 → p.34

機能

- 調光補正 → p.24
- FEロック → p.25
- ハイスピードシンクロ → p.26
- 後幕シンクロ → p.27
- モデリング発光 → p.36
- AF補助光 → p.22
- 照射角
 - ・ワイドパネル → p.33
- バウンス → p.28
 - ・キャッチライト → p.29
 - ・アダプター → p.30
- カラーフィルター → p.37

- 設定初期化 → p.38
- ストロボ機能設定 → p.39
- 発光制限 → p.92
- Bタイプカメラ → p.102

電波通信ワイヤレス撮影

- 全自動 → p.55
- マニュアル発光 → p.62
- グループ発光 → p.63
- テスト発光/
モデリング発光 → p.65
- リモートリリース → p.66
- 連動撮影 → p.67
- メモリー機能 → p.54

光通信ワイヤレス撮影

- 全自動 → p.75
- メモリー機能 → p.74
- 単独レシーバー → p.78

カスタマイズ

- カスタム機能 (C.Fn) → p.83
- パーソナル機能 (P.Fn) → p.86
- 一括解除 → p.82

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。

故障、不具合、破損の際は、弊社修理受付窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。



警告

下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、感電、破裂、液漏れの原因になりますので次のことは行わないでください。
 - ・ 本体・付属品・接続ケーブルなどの接点部に金属を差し込むこと。
 - ・ 指定以外の電池や変形または改造した電池を使用すること。
 - ・ 本体または電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中投入、水中投入、強い衝撃を与えること。
 - ・ 電池の＋を逆に入れること。新品電池と使用済電池、種類の異なる電池の混用。
- 可燃性ガスのある所で使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
- 車の運転者などに向けてストロボを発光しないでください。事故の原因になります。
- 分解、改造をしないでください。内部には高電圧回路が含まれており、感電の危険があります。
- 落下などにより機器内部が露出したときは、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 湿気やほこり、油煙の多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因になります。
- 飛行機内や病院で使用するときは、航空会社や病院の指示に従ってください。本製品が出す電磁波が、計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 熱くなる、煙が出る、焦げ臭い、液漏れ、変色、変形などの異常が発生したときは、やけどに十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、やけどの原因になります。
- 電池や付属品は、お子様や幼児の手の届かない所に置いてください。万一飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。電池の液で胃腸が冒される恐れがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属などの異物が入ったときは、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、やけどの原因になります。
- 製品を布でおおったり、包んで使用しないでください。本製品が発熱し、火災の原因になります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってコードやストラップを首に巻き付けて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。

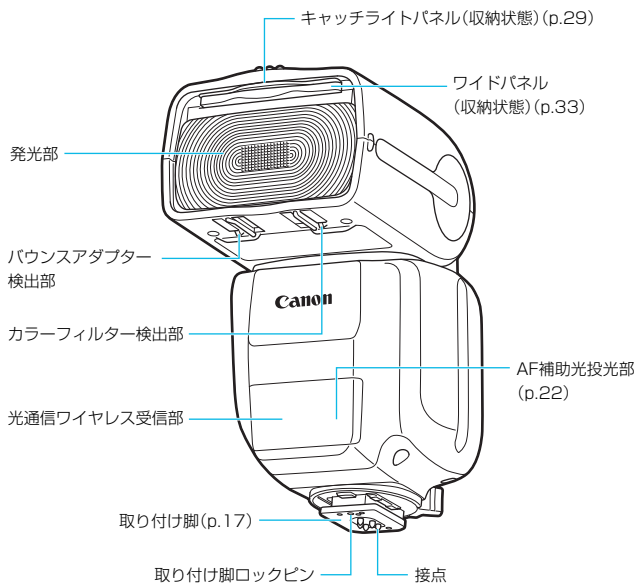
- 本製品を使用しないときは、電池を取り出し、電源パックやコードを取り外して保管してください。感電、発火、発熱、汚損の原因になります。
- 電池の液が目に入らないように、また皮膚や衣服に付かないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こしたり、衣服が汚損する恐れがあります。電池の液が目に入ったり、皮膚に付いたときは、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 本製品を拭くときは、シンナーやベンジンなどの有機溶剤を使わないでください。火災や健康障害の原因になります。
- ストロボを目に近づけて発光しないでください。視力障害の原因になります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上離れてください。

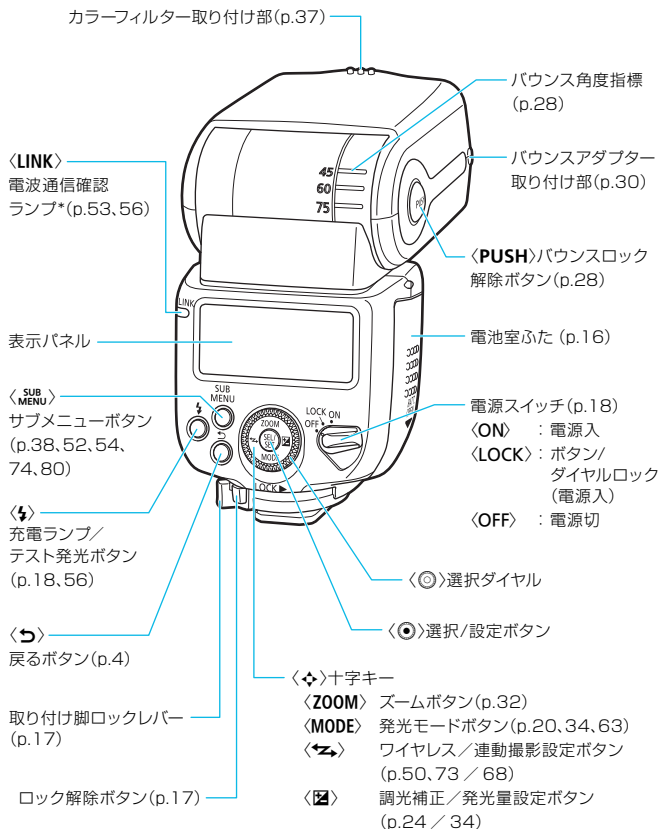
**注意**

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 本製品を長期間使用しないときは、電池を抜いて保管してください。故障、汚損の原因になることがあります。
- 電池を廃却するときは、接点をテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因になることがあります。
- 直射日光下の車中、高温状態の車中や熱いものの近くで使用、保管、放置しないでください。製品自体が高温になり、触るとやけどの原因になることがあります。また、電池の発熱、破裂、液漏れなどの原因になることがあります。
- 発光部を人や物に密着させて発光させないでください。やけど、発火の原因になることがあります。
- 本製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因になることがあります。
- 温度が高くなる部分に直接触れないでください。長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。
- 連続発光後に電池を交換すると、電池が熱くなっていることがあります。やけどの原因となりますので、電池交換の際は注意してください。

各部の名称

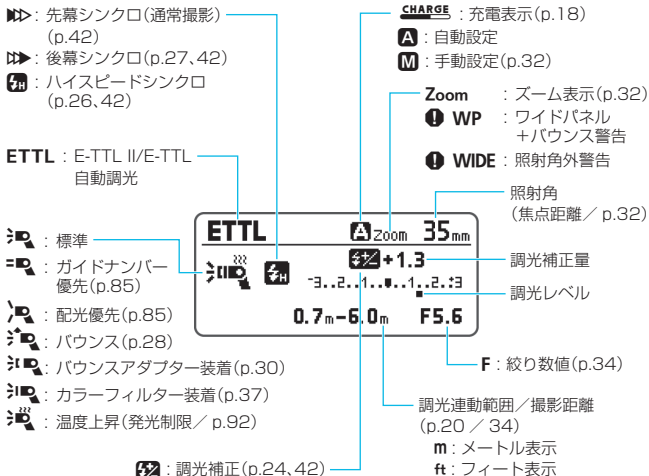




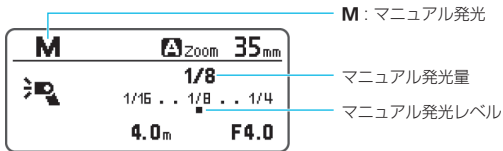
* スピードライト 430EX III は備えていません。

表示パネル

E-TTL II/E-TTL自動調光 (p.21)



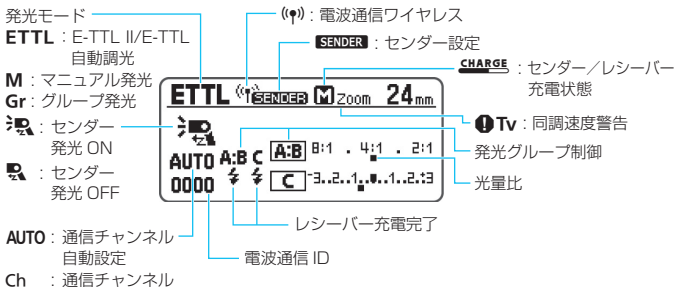
マニュアル発光 (p.34)



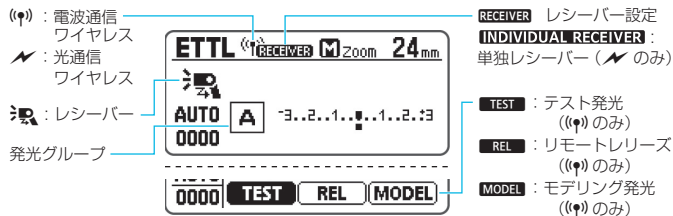
- 画面は表示例です。設定に応じた部分のみ表示されます。
- ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが照明されます (p.19)。
- <Gr> グループ発光時は (p.13)、発光モードを <ETTL> <M> <Ext.A> (外部調光オート) <OFF> から選択できます。

電波通信ワイヤレス撮影／光通信ワイヤレス撮影 (p.45／71)

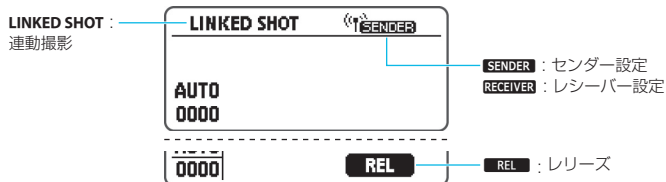
● 電波通信ワイヤレス：センドーストロボ (430EX III-RTのみ)



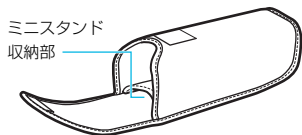
● 電波通信／光通信ワイヤレス：レシーバーストロボ



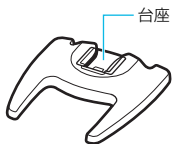
電波通信：連動撮影 (430EX III-RTのみ／p.67)



付属アクセサリー (430EX III-RT/430EX III共通)



ストロボケース



ミニスタンド
(p.47, 72)



バウンスアダプター
SBA-E2
(p.30)



カラーフィルター
SCF-E2
(p.37)



バウンスアダプター/
カラーフィルター用
ケース

1

撮影前の準備と簡単な撮影

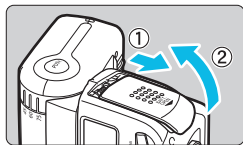
この章では、ストロボ撮影を行う前の準備と、基本的な撮影方法について説明しています。

🔊 連続発光に関するご注意

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、連続発光は20回までにしてください。20回連続発光したときは、10分以上休止してください。
- 20回連続発光したあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限中は、発光間隔が強制的に約8~25秒になります。そのときは20~30分以上休止してください。
- 詳しい内容については、92ページ「温度上昇による発光制限について」を参照してください。

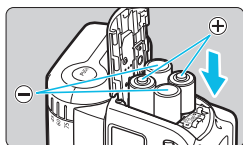
電池を入れる

電源には単3形電池4本を使用します。



1 ふたを開ける

- 電池室ふたを下にスライドさせて、電池室ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。

3 ふたを閉める

- 手順1と逆の操作で、電池室ふたを閉じて、上にスライドさせます。

発光間隔と発光回数

| 発光間隔 | | 発光回数 |
|-----------|-----------|------------|
| クイック発光 | 通常発光 | |
| 約0.1～2.5秒 | 約0.1～3.5秒 | 約180～1200回 |

- 新品の単3形アルカリ乾電池使用、当社試験基準による数値です。
- クイック発光は、フル充電前にストロボ撮影できる機能です (p.18)。

⚠ 注意

- 「単3形リチウム電池」は使用しないでください。

一部の「単3形リチウム電池」を使用した際に、まれに電池が非常に高温になることがあります。お客様の安全のため、「単3形リチウム電池」の使用はお控えください。

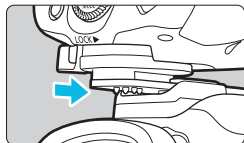
- 連続発光を行ったときは発光部や電池、電池室付近に触れないでください。
ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。発光部や電池、電池室付近が高温になり、やけどの原因になる恐れがあります。
- 長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合は、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

- アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点の形状が規格で統一されていないため、電池の種類により接触不良を起こすことがあります。



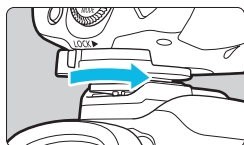
- 〈〉が表示されたときや、充電中に表示パネルの表示が消えてしまうときは、新しい電池に交換してください。
- 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時に行ってください。
- 単3形ニッケル水素電池も使用できます。

カメラに取り付ける／取り外す



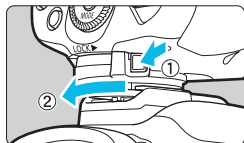
1 取り付ける

- ストロボの取り付け脚がアクセサリースューの奥に突き当たるまで、差し込みます。



2 固定する

- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。
- 「カチッ」と音がしてロックされます。

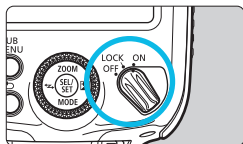


3 取り外す

- ロック解除ボタンを押しながら、ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラから取り外します。

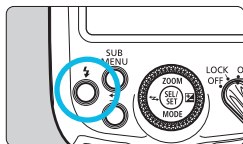
- ストロボの取り付け／取り外しは、必ずストロボの電源を切ってから行ってください。

電源を入れる



1 電源スイッチを〈ON〉にする

- 充電が始まります。
- 充電中は表示パネルに〈**CHARGE**〉が表示されます。充電が完了すると表示が消えます。



2 充電を確認する

- 充電ランプの状態が、消灯→緑色（クイック発光可能）→赤色（フル充電）の順に変わります。
- テスト発光ボタン（充電ランプ）を押すと、テスト発光を行うことができます。

クイック発光機能について

クイック発光は、充電ランプが緑色の状態で（フル充電前に）ストロボ撮影ができる機能です。カメラのドライブモードの設定に関わらず機能します。発光量はフル発光時の約1/2～1/3になりますが、発光間隔を短くしたいときに有効です。

マニュアル発光時は、発光量が1/4～1/128に設定されているときに機能します。なお、ワイヤレスストロボ撮影時はクイック発光できません。

オートパワーオフ機能について

電池の消耗を防ぐため、約90秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるときは、カメラのシャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタン（充電ランプ）を押します。

なお、電波通信ワイヤレス撮影時のセンドーストロボ（p.57）、連動撮影（p.69）のときは、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。

🔊 カメラのⒶ4 / Ⓐ6 / Ⓐ8 / Ⓐ10 / Ⓐ16タイマーが働いているときは、テスト発光できません。

📶 電波通信ワイヤレスセンドー設定時の〈**CHARGE**〉の表示については、54ページを参照してください。

ロック機能について

電源スイッチを〈LOCK〉にすると、ストロボのボタンやダイヤル操作を禁止することができます。ストロボの機能の設定を行ったあと、不用意に設定が変わらないようにしたいときに使用します。


ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルに〈**LOCKED**〉が表示されます。


表示パネル照明について

ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが約12秒間照明されます(約12)。機能設定中のときは、設定が終わるまで照明が行われます。

通常のストロボ撮影、および電波通信ワイヤレス撮影時のセンドーストロボ (p.46)、連動撮影時のセンダーカメラ (p.67) のときは、緑色に照明されます。ワイヤレス撮影時のレシーバーストロボ、連動撮影時のレシーバーカメラのときは、オレンジ色に照明されます。

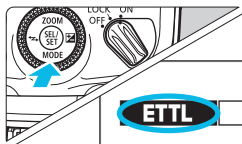
なお、電波通信ワイヤレスセンドー設定時の表示パネル照明については、54ページを参照してください。

 連続撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。

- 
- ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。電池交換時に設定状態を保持したいときは、電源を切り、電池を取り出してから1分以内に電池を交換してください。
 - 連続発光により、発光部の温度が上昇しているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
 - 電源スイッチが〈LOCK〉でもテスト発光を行うことができます。また、ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルの照明が行われます。
 - オートパワーオフ機能が働かないようにすることができます (C.Fn-01 / p.83)。
 - 表示パネル照明の設定を変更することができます (C.Fn-22 / p.85)。
 - 表示パネル照明の色を変更することができます (P.Fn-02~04 / p.86)。
 - クイック発光を禁止することができます (P.Fn-06 / p.87)。

ETTL: 全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈P〉(プログラムAE)、または「全自動」に設定すると、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。



1 発光モードを〈ETTL〉にする

- 〈◇〉十字キーの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈○〉を回して〈ETTL〉を選び、〈○〉を押します。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ファインダー内に、シャッター速度と絞り数値が表示されます。
- ファインダー内に〈◇〉が点灯していることを確認します。



調光連動範囲

3 撮影する

- 被写体が調光連動範囲に入っていることを確認します。
- シャッターボタンを全押しすると、ストロボが発光し、撮影が行われます。

- 撮影画像を確認して被写体が暗い(露出アンダーの)ときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げる方法もあります。
- 「全自動」は〈A〉〈□〉〈CA〉の撮影モードを示しています。
- E-TTL II対応のカメラに取り付けた場合でも、表示パネルには〈ETTL〉と表示されます。

撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影

カメラの撮影モードを〈Tv〉(シャッター優先AE)、〈Av〉(絞り優先AE)、〈M〉(マニュアル露出)に設定するだけで、それぞれの撮影モードに応じたE-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

| | |
|-----------|---|
| Tv | 任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。 設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で標準露出となる絞り数値が自動設定されます。 <ul style="list-style-type: none">● 絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。絞り数値が点灯するようにシャッター速度を変更してください。 |
| Av | 任意の絞り数値を設定したいときに選択します。 設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッター速度が自動設定されます。 暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となる「スローシンクロ撮影」になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出になります。 <ul style="list-style-type: none">● 暗い場所ではシャッター速度が遅くなるため、三脚を使用して撮影することをおすすめします。● シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、または露出オーバーになります。シャッター速度が点灯するように絞り数値を変更してください。 |
| M | シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。 主被写体はストロボ光で標準露出になります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。 |

- 〈DEP〉〈A-DEP〉で撮影したときは、〈P〉(プログラムAE)によるストロボ撮影と同じ結果になります。

撮影モード別ストロボ同調シャッター速度と絞り数値


| | シャッター速度 | 絞り数値 |
|-----------|---------------------|------|
| P | 自動設定 (1/X~1/60秒) | 自動設定 |
| Tv | 手動設定 (1/X~30秒) | 自動設定 |
| Av | 自動設定 (1/X~30秒) | 手動設定 |
| M | 手動設定 (1/X~30秒、Bulb) | 手動設定 |

- 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

画面サイズ対応自動ズームについて

EOS デジタルカメラには3種類の画面サイズがあり、装着したレンズの有効撮影画角はそれぞれの機種で異なります。本機では各EOS デジタルカメラの画面サイズを自動認識して、24~105mmの範囲でレンズの有効撮影画角に最適な照射角が自動設定されます。

色温度情報通信について

ストロボ発光時の色温度情報をEOS デジタルカメラに伝えることで、ストロボ撮影時のホワイトバランスを最適にする機能です。カメラのホワイトバランスが、〈AWB〉〈〉のときに自動的に働きます。

対応カメラについては、カメラ使用説明書の「主な仕様」を参照してください。

AF補助光について

ファインダー撮影時に暗い場所でピント合わせを行ったときや、被写体のコントラストが低いときなど、AFでピントが合いにくいときは、AFによるピント合わせを補助するため、ストロボが連続的に光ります（ストロボ間欠発光）。AF補助光の有効距離は、ファインダー内中央：約0.7~4m/周辺：約0.7~3.5mです。



- ストロボ間欠発光によるAF補助光は、カメラのメニュー画面から外部ストロボを制御する機能を備えた、EOS デジタルカメラと組み合わせたときに投光されます。なお、カメラの機種によっては、カメラのファームウェアのアップデートが必要な場合があります。
- カラーフィルター装着時は（p.37）、ストロボ間欠発光によるAF補助光は投光されません。AF補助光が必要なときは、P.Fn-05-1 に設定してください（p.87）。




- ライブビュー撮影時にAF方式が [クイックAF] に設定されているときも、ストロボ間欠発光によるAF補助光が投光されます。
- AF補助光の投光を禁止することができます（C.Fn-08/p.84）。
- 赤外光方式のAF補助光を投光することができます（P.Fn-05/p.87）。

2

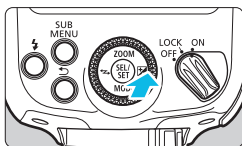
ストロボ撮影応用編

この章では、ストロボの機能を活用した応用的な撮影方法について説明しています。

 カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、ページタイトル右に **応用** が付いている機能は設定できません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/B**〉（応用撮影ゾーン）にすると、この章のすべての操作を行うことができます。

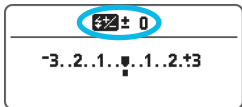
調光補正 応用

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。



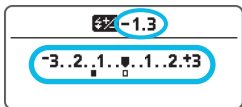
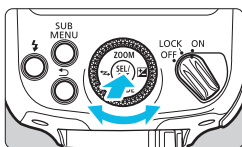
1 ボタンを押す

- 十字キーの ボタンを押します。
- を押して を回して、調光補正の項目を選ぶこともできます。



2 補正量を設定する

- を回して補正量を設定し、 を押します。
- 補正量が設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を解除するときには、補正量を「±0」に戻します。



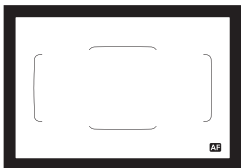
- 一般的に、白い被写体に対してはプラス補正、黒い被写体に対してはマイナス補正を行います。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- ストロボとカメラの両方で調光補正を行ったときは、ストロボ側の設定が優先されます。
- 十字キーの ボタンを押さずに、直接 を回して調光補正量を設定することができます (C.Fn-13/p.84)。

FEL: FE ロック 応用

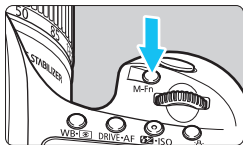
FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

表示パネルに **<ETTL>** が表示されている状態で、カメラの **<M-Fn>** ボタンを押します。**<M-Fn>** ボタンのないカメラは、**<★>** (AEロック) または **<FEL>** ボタンを押します。

1 被写体にピントを合わせる



2 <M-Fn> ボタンを押す (Ⓜ16)

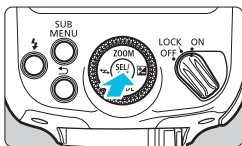


- 被写体をファインダーの中央に置いてカメラの **<M-Fn>** ボタンを押します。
- ➔ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な発光量が記憶されます。
- ➔ ファインダー内に「**FEL**」が約0.5秒間表示されます。
- **<M-Fn>** ボタンを押すたびにプリ発光し、そのときに必要な発光量が記憶されます。

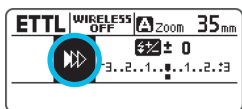
- FEロックを行ったときに適切な露出が得られないときは、ファインダー内の **<⚡>** が点滅します。被写体に近づくか絞りを開いて、再度FEロックを行ってください。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げて再度FEロックを行う方法もあります。
- ファインダーの視野に対して被写体が小さいときは、FEロックの効果が得られないことがあります。

ハイスピードシンクロ 応用



ハイスピードシンクロ機能を使用すると、ストロボ同調最高速度を超える速いシャッター速度でもストロボ撮影ができるようになります。日中の屋外などで、**<Av>**（絞り優先AE）モードで被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときに有効です。

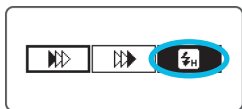


1 を押す








2 図の項目を選ぶ




-  を回して図に示す項目を選び、 を押します。



3 を選ぶ

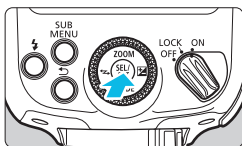
-  を回して  を選び、 を押します。
- ファインダー内に  が点灯していることを確認してから撮影します。

 ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほどガイドナンバーが低下します。調光運動範囲は表示パネルで確認することができます。

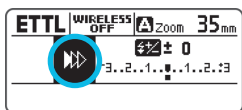
- シャッター速度がストロボ同調最高速度以下のときは、ファインダー内に  は表示されません。
- 通常の発光に戻すときは、手順3で （先幕シンクロ）を選びます（設定後の画面に  は表示されません）。

▶▶ 後幕シンクロ 応用

低速シャッターで後幕シンクロを行うと、車のライトなど、動いている被写体の光源の軌跡を自然な感じで写すことができます。撮影が終了する（シャッターが閉じる）直前にストロボが発光します。

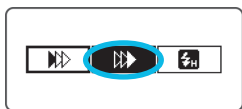


1 <⊙> を押す



2 図の項目を選ぶ

- <⊙> を回して図に示す項目を選び、<⊙> を押します。



3 <▶▶> を選ぶ

- <⊙> を回して <▶▶> を選び、<⊙> を押します。




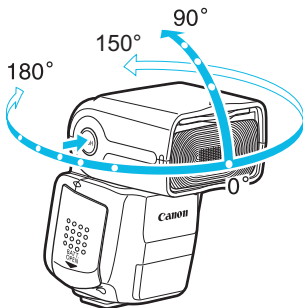
- カメラの撮影モードを （バルブ撮影）にすると、後幕シンクロ撮影がしやすくなります。
- 発光モードが <ETTL> のときは、ストロボが2回発光します。1回目の発光は、発光量を決めるためのプリ発光ですので、故障ではありません。
- ワイヤレスストロボ撮影のときは、後幕シンクロはできません。
- 通常の発光に戻すときは、手順3で <▶▶>（先幕シンクロ）を選びます（設定後の画面に <▶▶> は表示されません）。

バウンス

ストロボの発光部を天井や壁に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影すると、被写体による影が緩和されて、より自然な感じで写すことができます。この撮影方法を「バウンス撮影」といいます。

発光部の向きを決める

- 図のように、〈**PUSH**〉ボタンを押しながら発光部の向きを変えることができます。発光部の向きを変えたときは、表示が〈〉になります。
- 照射角を〈**A**〉（自動設定）に設定した状態で発光部の向きを変えると、照射角が50mmに設定され、〈**—**〉と表示されます。
- 照射角を手動で設定することもできます（p.32）。



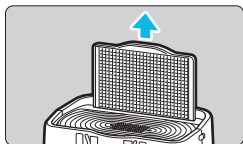
- バウンスさせる天井や壁までの距離が離れていると、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。
- 撮影した画像が暗いときは、より小さな絞り数値を設定して（絞りを開いて）再度撮影してください。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げる方法もあります。
- バウンスさせる天井や壁は、無地の白に近い色をした反射率の高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けたり、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。
- バウンス撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。

- バウンス撮影時はガイドナンバーが低下するため、ストロボ間欠発光によるAF補助光ではピント合わせができないことがあります。バウンス撮影時は、赤外光方式のAF補助光の使用をおすすめします (P.Fn-05-1/p.87)。

キャッチライト撮影

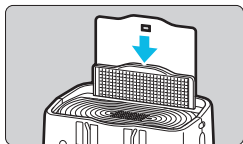
キャッチライトパネルを使ってポートレート撮影を行うと、人物の目に光が写り込み、表情をより生き生きとさせることができます。

1 発光部を上方向90°にする



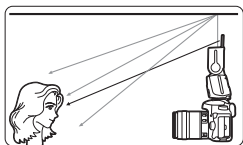
2 ワイドパネルを引き上げる

- ワイドパネルの中央にある突起を引き上げます。
- ➔ 白いキャッチライトパネルも一緒に引き出されます。



3 ワイドパネルを押し戻す

- ワイドパネルだけを押し戻し、キャッチライトパネルだけが上がった状態にします。
- バウンス撮影と同じ方法で撮影します。



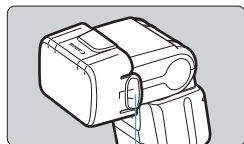
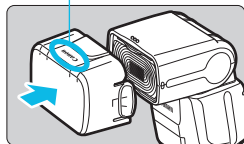
- 発光部の位置は正面・上方向90°にしてください。発光部を左右に回転させるとキャッチライトの効果は得られません。
- 人物の目にキャッチライトを効果的に入れるため、被写体から約1.5m以内 (ISO100時) の距離で撮影してください。
- ワイドパネルを強い力で引き上げないでください。ワイドパネルがストロボから外れる恐れがあります。

📷 バウンスアダプターについて

付属のバウンスアダプターをストロボに装着して、ストロボ光を天井や壁などにバウンスさせて撮影すると、ストロボ光がより広範囲に拡散されて和らぎ、被写体の影を抑えることができます。

また、発光部を90°の位置にして天井などにバウンスさせたときは、バウンスアダプターの側面から拡散されたストロボ光が被写体の正面から当たり（撮影距離の目安：約1.5m以内/ISO100時）、被写体の影をさらに抑えることができます。人物撮影のときはキャッチライト効果も得られます。

“Canon” ロゴ



取り外し爪

1 バウンスアダプターを取り付ける

- 図のようにアダプターをストロボの発光部に「カチッ」と音がするまで確実に取り付けます。
- 表示が「📷」になっていることを確認します。
- アダプターを取り外すときは、左右の取り外し爪を浮かせて発光部から取り外します。

ETTL

Zoom --mm

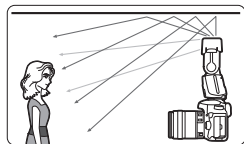


-3..2..1..0..1..2..3

F5.6

2 撮影する

- 天井や壁などにバウンスさせて撮影します。





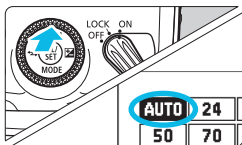
- バウンスアダプター装着時や、バウンスアダプター+ワイドパネル併用時は、ガイドナンバーが低下して露出不足になりやすいため、必要に応じてカメラのISO感度を上げたり、調光補正 (p.24) を行ってください。
- バウンスアダプター装着時はガイドナンバーが低下するため、ストロボ間欠発光によるAF補助光ではピント合わせができないことがあります。赤外光方式のAF補助光の使用をおすすめします (P.Fn-05-1 / p.87)。
- バウンスアダプター装着時にクイック発光 (p.18) を行うと、発光量が不足することがあるため、充電ランプが赤色になってから撮影することをおすすめします。
- バウンスアダプター装着時は、照射角が自動設定されます。任意に変更することはできません。
- 2004年までに発売されたEOSデジタルカメラを使用して、ストロボにバウンスアダプターを装着したときは、ホワイトバランスを **AWB** に設定してください。⚡ の設定で撮影すると、適切なホワイトバランスが得られないことがあります。



- ワイドパネルを併用すると (p.33)、さらに光を和らげることができます。
- 撮影画像を確認して被写体が暗い (露出アンダーの) ときは、調光補正 (p.24) を行ってください。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げる方法もあります。

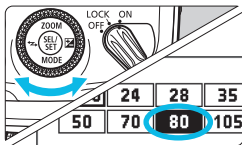
Zoom: 照射角の設定 応用

照射角（ストロボ光を照射する範囲）を、自動または手動で設定することができます。〈A〉（自動設定）のときは、使用するレンズの焦点距離（撮影画角）、画面サイズ（p.22）に応じて照射角が自動調整されます。〈M〉（手動設定）のときは、24～105mmの範囲で任意に設定することができます。



1 〈ZOOM〉 ボタンを押す

- 〈◇〉 十字キーの〈ZOOM〉ボタンを押します。



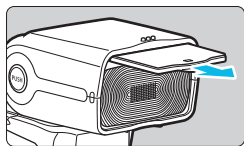
2 照射角を設定する

- 自動設定にするときは〈AUTO〉、手動設定を行うときは（焦点距離mmを表す）数値を選びます。
- 〈○〉を回して照射角を選び、〈○〉を押します。

- 照射角を手動設定するときは、撮影した写真の周辺が暗くならないように、撮影画角と同じか、撮影画角よりも広い照射角を設定します。
- 焦点距離が24mmより短いレンズを装着したときは、表示パネルに警告〈WIDE〉が表示されます。なお、画面サイズがフルサイズ以外のカメラを使用したときは、実際の撮影画角が24mmレンズ相当の画角よりも広いときに警告〈WIDE〉が表示されます。

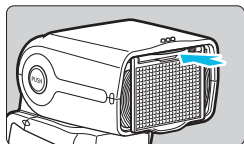
ワイドパネル

ストロボに内蔵されたワイドパネルを併用すると、焦点距離14mmの超広角レンズの撮影画角に対応したストロボ撮影を行うことができます。



1 ワイドパネルを引き出す


- ワイドパネルの中央にある突起を引き出します。
- ➔ 白いキャッチライトパネルも一緒に引き出されます。



2 キャッチライトパネルを押し戻す

- キャッチライトパネルだけを押し戻し、ワイドパネルが下がった状態にします。



- ワイドパネルを使用してバウンス撮影を行うと露出不足になりやすいため、表示パネルに警告〈 WP〉が表示されます。
- ワイドパネルを強い力で引き出さないでください。ワイドパネルがストロボから外れる恐れがあります。
- EF15mm F2.8フィッシュアイ、EF8-15mm F4LフィッシュアイUSMの撮影画角には対応していません。

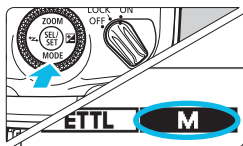


ワイドパネル使用時は照射角が自動設定されます。任意に変更することはできません。

M: マニュアル発光 応用

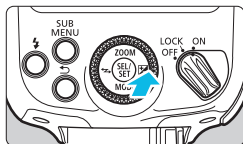
フル発光 (1/1) から 1/128 発光まで、発光量を 1/3 段ステップで設定することができます。

市販のフラッシュメーターを使用して発光量を決めると、正確な露出を得ることができます。カメラの撮影モードを **Av** または **M** に設定することをおすすめします。



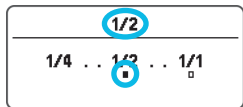
1 発光モードを **M** にする

- **十字キーの **MODE** ボタン**を押します。
- **ダイヤル**を回して **M** を選び、**シャッターボタン**を押します。



2 発光量を設定する

- **十字キーの **1/2** ボタン**を押します。
- **ダイヤル**を回して発光量を設定し、**シャッターボタン**を押します。



撮影距離 絞り数値

- シャッターボタンを半押しすると、撮影距離の目安と絞り数値が表示されます。

- マニュアル発光時のガイドナンバーについては、101 ページを参照してください。
- **十字キーの **1/2** ボタン**を押さずに、直接 **ダイヤル**を回して発光量を設定することができます (C.Fn-13/p.84)。

ストロボメータードマニュアル撮影について

EOS-1Dシリーズ使用時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。被写体との距離が近いときに有効です。市販の18%標準反射板を使って次のように撮影します。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈M〉または〈Av〉にします。
- ストロボの発光モードを〈M〉にします。

2 ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

3 18%標準反射板をセットする

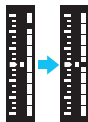
- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内中央のスポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4 〈M-Fn〉または〈*〉〈FEL〉ボタンを押す (☉16)

- ➔ ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
- ➔ ファインダー内右側の露出レベル表示に、標準露出に対する調光レベルが表示されます。


5 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と絞り数値を設定します。



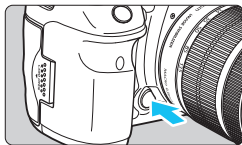
6 撮影する

- 標準反射板を取り除いて撮影します。

 EOS-1Dシリーズ以外のカメラでは、ストロボメータードマニュアル撮影はできません。

モデリング発光 応用


カメラの絞り込みボタンを押すと、ストロボが約1秒間連続的に発光します。この機能を「モデリング発光」といいます。ストロボ光による被写体の影の出かたや、ワイヤレスストロボ撮影時 (p.45、71) にライティングのバランスを確認するときには有効です。



カメラの絞り込みボタンを押す

- ストロボが約1秒間連続的に発光します。

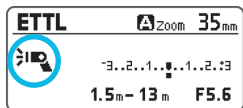
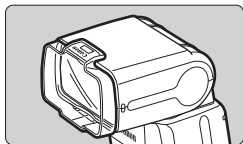
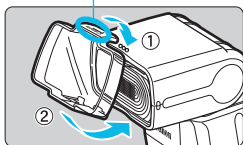
- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、モデリング発光は連続20回までにしてください。連続20回発光したときは、10分以上休止してください。
- 連続して20回を超える発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。そのときは20～30分以上休止してください。
- ライブビュー撮影時は、(カメラ側操作による) モデリング発光はできません。
- EOS M3、EOS M2、EOS M、EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、NEW EOS Kiss、EOS Kiss Lite、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50 と組み合わせたときは、(カメラ側操作による) モデリング発光はできません。C.Fn-02を1または2に設定して (p.83)、テスト発光ボタンでモデリング発光を行ってください。

 通常のストロボ撮影、および電波通信ワイヤレス撮影時のセンドーストロボのときに、テスト発光ボタンでモデリング発光を行うことができます (C.Fn-02 / p.83)。

👁️ カラーフィルター

白熱電球照明（タングステン光源）下でストロボ撮影を行うと、ストロボ光が届かない被写体の背景が、赤みがかった不自然な色になることがあります。付属のカラーフィルターをストロボに装着して撮影すると、カメラのホワイトバランス機能によって自動補正が行われ、被写体と背景を適切なホワイトバランスで写すことができます。

“Canon” ロゴ



1 カラーフィルターを取り付ける

- 図のようにフィルターをストロボの発光部に「カチッ」と音がするまで確実に取り付けます。
- 表示が 👁️ になっていることを確認します。
- フィルターを取り外すときは、逆の手順でフィルターの下側にある保持爪を浮かせて発光部から取り外します。

2 撮影する

- カメラのホワイトバランスを、👁️ に設定して撮影します。
- 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラのときは、ホワイトバランスを 👁️ (AWB) に設定して撮影することもできます（EOS Kiss X70を除く）。
- 撮影結果を確認して、必要に応じてカメラ側でホワイトバランス補正を行ってください。

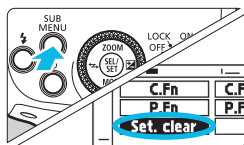


- カラーフィルター使用時はガイドナンバーが低下します。マニュアル発光を行うときは、+1段を目安に発光量を補正してください。
- 付属のカラーフィルターに市販のカラーフィルターを重ねて使用しないでください。

- 色温度情報通信に対応していないカメラのときは (p.22)、撮影する環境下でカラーフィルターを使ってマニュアルホワイトバランス用の画像の撮影と設定を行い、ホワイトバランスを $\langle \text{☉} \rangle$ に設定して撮影してください。
- 発光部にカラーフィルターを取り付けても、照射角に対する影響はありません。
- カラーフィルターが汚れたり、ゴミが付着したときは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- カラーフィルター使用時にバウンスアダプター (p.30) を取り付けることもできます。
- 白熱電球照明の (やや赤みがかかった) 雰囲気を出したいときは、アンバー側にホワイトバランス補正を行ってください。

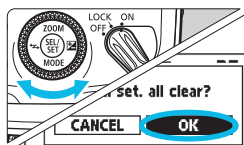
ストロボ設定初期化 応用

ストロボの撮影機能やワイヤレス撮影の設定を、初期状態に戻すことができます。



1 設定初期化画面を表示する

- $\langle \text{SUB MENU} \rangle$ ボタンを押します。
 - $\langle \text{☉} \rangle$ を回して $\langle \text{Set. clear} \rangle$ を選び、 $\langle \text{☉} \rangle$ を押します。
- 確認画面が表示されます。



2 設定を初期化する

- $\langle \text{☉} \rangle$ を回して $\langle \text{OK} \rangle$ を選び、 $\langle \text{☉} \rangle$ を押します。
- ストロボの設定が初期化され、通常撮影、発光モードが $\langle \text{ETTL} \rangle$ になります。

設定初期化を行っても、ワイヤレス撮影時の通信チャンネルと電波通信ID、カスタム機能 (C.Fn)、パーソナル機能 (P.Fn) の設定は解除されません。

3

カメラ操作による ストロボの機能設定

この章では、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法について説明しています。



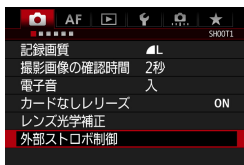
カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/B**〉（応用撮影ゾーン）にしてください。

カメラのメニュー画面からのストロボ制御

2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。

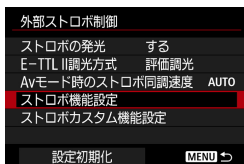
カメラの操作方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定



1 [外部ストロボ制御] を選ぶ

- [外部ストロボ制御] または [ストロボ制御] を選びます。



2 [ストロボ機能設定] を選ぶ

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] を選びます。
- ➔ 設定画面が表示されます。

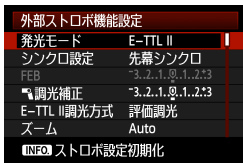
3 機能を設定する

- カメラにより設定画面や表示される項目が異なります。
- 項目を選び、機能を設定します。

表示例1



表示例2



ストロボ機能設定画面で設定できる内容

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

カメラの「ストロボ機能設定」または「外部ストロボ機能設定」の画面で「通常撮影」「電波通信ワイヤレス撮影」の設定を行うことができます。

* EOS Kiss X70は2012年以降の発売ですが、設定できる内容は下記の「2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ」と同じです。

● 2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark IV/III、EOS 5D Mark II、EOS 7D/60D/50D/40D、EOS Kiss X5/X4/X3/X2/X50/F

「ストロボ機能設定」または「外部ストロボ機能設定」の画面で、「通常撮影」の設定を行うことができます。「電波通信ワイヤレス撮影」を行うときは、ストロボを操作して設定してください。

設定できる主な機能は次のとおりです。使用するカメラや発光モード、ワイヤレス機能の設定などにより、設定できる内容が異なります。

| 機能 | |
|-----------------|------------------------------|
| ストロボの発光 | する／しない |
| E-TTL II調光方式 | 評価調光／平均調光 |
| Avモード時のストロボ同調速度 | |
| 発光モード | E-TTL II（自動調光）／マニュアル発光 |
| シンクロ設定 | 先幕シンクロ／後幕シンクロ／ ハイスピードシンクロ |
| 調光補正 | |
| ズーム（照射角） | |
| ワイヤレス機能 | ワイヤレス：OFF／ワイヤレス：電波通信 |
| 設定初期化 | |

● ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは、[する] に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用するときは、[しない] に設定します。

● E-TTL II調光方式

通常は標準的なストロボ露出が得られる [評価調光] に設定します。[平均調光] に設定すると、カメラの測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

● Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AE (Av) モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

● 発光モード

撮影目的に応じて [E-TTL II] [マニュアル発光] を選ぶことができます。

● シンクロ設定


ストロボの発光タイミング/発光方式を [先幕シンクロ] [後幕シンクロ] [ハイスピードシンクロ] の中から選ぶことができます。通常のストロボ撮影を行うときは、[先幕シンクロ] に設定します。

● 調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

● ズーム (照射角)

ストロボの照射角を設定することができます。[オート] を選ぶと、撮影レンズの焦点距離、カメラの画面サイズ (p.22) に応じて照射角が自動設定されます。

- 
- [ストロボの発光] [E-TTL II調光方式] は、40ページの手順2または手順3で表示されます (カメラにより異なります)。
 - [Avモード時のストロボ同調速度] が表示されないときは、カメラのカスタム機能で設定することができます。

● ワイヤレス機能

電波通信ワイヤレスストロボ撮影の設定を行うことができます。詳しい内容については、4章 (p.45) を参照してください。

● 設定初期化

ストロボの設定内容を初期状態に戻すことができます。



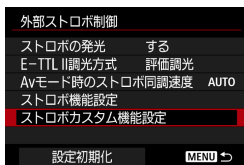
- [ストロボの発光] を [しない] に設定しても、P.Fn-05-0に設定されているときは (p.87)、必要に応じてストロボ間欠発光によるAF補助光が投光されます (p.22)。
- バウンスアダプター装着時、ワイドパネル使用時など、照射角が自動設定されるときは、[ズーム] (照射角) の設定はできません。



ストロボ側で調光補正を行ったときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

ストロボカスタム機能設定

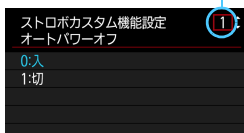
カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定することができます。なお、表示される内容は使用するカメラによって異なります。C.Fn-21～23が表示されないときは、ストロボを操作して設定してください。カスタム機能については、83～85ページを参照してください。



1 [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ

- [ストロボカスタム機能設定] または [外部ストロボカスタム機能設定] を選びます。
- ➔ ストロボのカスタム機能設定画面が表示されます。

2 カスタム機能を設定する



- カスタム機能番号を選び、機能を設定します。
- カスタム機能の設定をすべて解除するときは、手順1で（[設定初期化] を選び、）[ストロボカスタム機能一括解除] または [外部ストロボカスタム機能一括解除] を選びます。

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X70では、[ストロボカスタム機能一括解除] または [外部ストロボカスタム機能一括解除] を選んでも、C.Fn-21～23の設定は解除されません。82ページのカスタム機能一括解除を行うと、すべてのカスタム機能が解除されます（C.Fn-00を除く）。
- パーソナル機能（P.Fn/p.86）は、カメラのメニュー画面から設定／一括解除することはできません。ストロボを操作して設定してください。

4

電波通信 ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「電波通信」ワイヤレスセンドー／レーザー機能を使用したストロボ撮影方法について説明しています。

電波通信ワイヤレス撮影に必要なアクセサリについては、システム図を参照してください (p.90)。

使用可能な地域と制限事項、および電波通信に関する注意事項については、103ページを参照してください。

- 電波通信機能を備えていない「スピードライト430EX III」使用時は、この章の撮影はできません。レーザー機能を使用した光通信ワイヤレスストロボ撮影を行うときは、5章を参照してください (p.71)。
- カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのとときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/B**〉(応用撮影ゾーン) にしてください。

- センドーストロボとレーザーストロボにそれぞれ430EX III-RTを使って説明しています。
- カメラに取り付けた430EX III-RTを「センドー」、ワイヤレス制御される430EX III-RTを「レーザー」と呼んでいます。

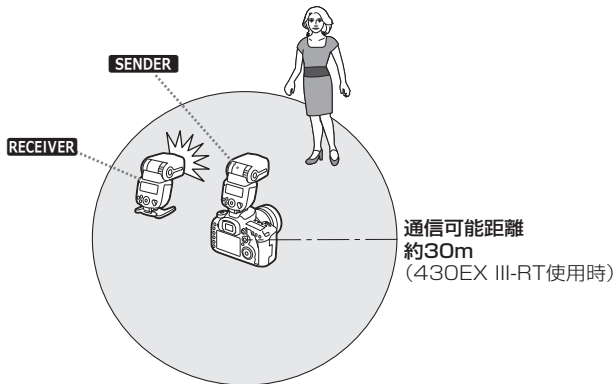
④ 電波通信ワイヤレスストロボ撮影

電波通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライト（センドー／レシーバー）を使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

カメラに取り付けた430EX III-RT（センドー）の設定内容が、ワイヤレス制御される430EX III-RT（レシーバー）側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にレシーバーを操作する必要はありません。

配置と作動範囲（ワイヤレスストロボ撮影例）

● レシーバーを1灯使った自動調光撮影（p.55）



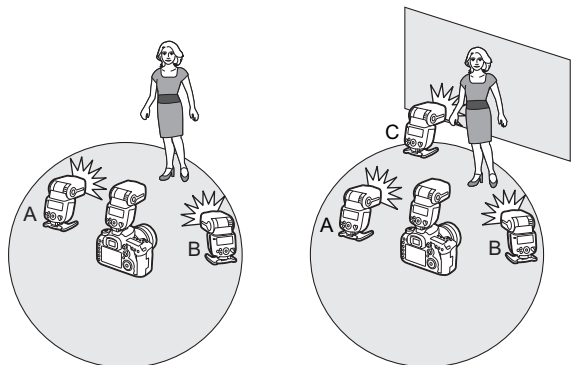
- レシーバーに設定した430EX III-RTを、電波通信ワイヤレスセンドー機能を備えた430EX III-RT以外の他の機器でワイヤレス制御することもできます。そのときのセンドー機能の設定方法については、その機器の使用説明書を参照してください。
- 付属のミニスタンド（p.14）を使用してレシーバーを配置します。

ワイヤレス多灯撮影

レシーバーを2グループ、または3グループに分けて、光量比（発光量の割合）を変えながら、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

また、最大5グループまでの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して撮影することもできます（p.48）。

● レシーバーをグループに分けた自動調光撮影



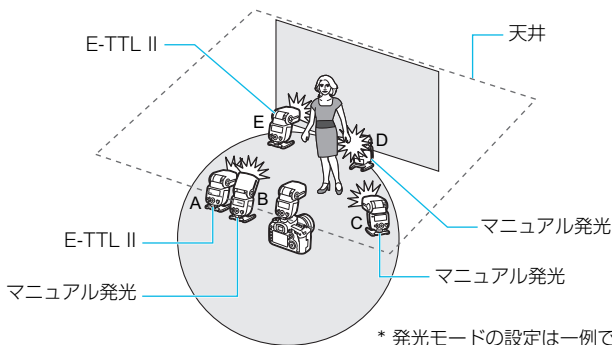
2 (A, B) グループ (p.59)

3 (A, B, C) グループ (p.60)



- 撮影を行う前にテスト発光（p.18）やテスト撮影を行ってください。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなる場合があります。

●グループごとに発光モードを設定した撮影 (p.63)



電波通信と光通信の違いについて

電波通信によるワイヤレス撮影は、光通信によるワイヤレス撮影に比べて、障害物の影響を受けにくく、レシーバーのワイヤレス受信部をセンターに向ける必要がないなどの利点があります。なお、機能面での主な違いは次のとおりです。

| 機能 | | 電波通信 | 光通信 |
|----------|---------|--|----------------------|
| 通信可能距離 | | 約30m | 約15m (屋内) |
| 発光グループ制御 | | 最大5グループ* ¹ (A, B, C, D, E) | 最大3グループ (A, B, C) |
| レシーバー制御 | | 最大15台 | 無制限 |
| 通信チャンネル | | オート、Ch.1~15 | Ch.1~4 |
| 電波通信ID | | 0000~9999 | — |
| レシーバー操作 | テスト発光 | ○ | — |
| | モデリング発光 | ○* ² | — |
| | リリース | ○* ³ | — |

*1~3：使用するカメラにより制限事項があります。

(*1：p.49、63/*2：p.65/*3：p.66を参照してください)

使用カメラによる機能制限について

電波通信ワイヤレスストロボ撮影では、使用するカメラにより、機能が制限されることがあります。

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1D Xなどのカメラと組み合わせたときは、発光モードとストロボ同調速度などに制限なく撮影することができます。

* EOS Kiss X70は2012年以降の発売ですが、機能制限の内容は2011年までに発売されたEOSデジタルカメラと同じです（下記参照）。

● 2011年までに発売されたE-TTL対応EOSカメラ

下記のカメラと組み合わせたときは、E-TTL自動調光による電波通信ワイヤレス撮影はできません。 マニュアル発光（p.62）、または光通信ワイヤレスレシーバー機能（p.71）を使用して撮影を行ってください。

EOS-1Ds、EOS-1D、EOS-1V、EOS-3、EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、New EOS Kiss、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50

また、2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ、EOSフィルムカメラと組み合わせたときは、以下の制限を受けます。

① ストロボ同調速度が1段遅くなります。

使用するカメラのストロボ同調速度（ $X=1/**$ 秒）を確認して、ストロボ同調速度から1段遅いシャッター速度を上限にして撮影を行ってください（例： $X=1/250$ 秒の場合、 $1/125\sim 30$ 秒の範囲で電波通信ワイヤレス撮影が可能）。

シャッター速度をストロボ同調速度から1段遅くすると、**TV**による警告表示が消えます。

② ハイスピードシンクロ撮影はできません。

③ グループ発光はできません（p.63）。

④ レシーバーからのモデリング発光（p.65）、レシーバーからのリモートリリース（p.66）はできません。

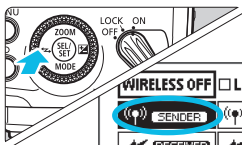
⑤ 連動撮影時に「レシーバーカメラ」として使用できません（p.67）。

「セNDERカメラ」としてのみ使用できます。

ワイヤレス設定

電波通信ワイヤレス撮影を行うときは、以下の操作でセンドー、レシーバーの設定を行います。

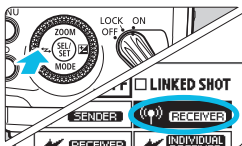
センドー設定



《**SENDER**》に設定する

- <⬇️> 十字キーの <↔️> ボタンを押します。
- <⦿> を回して <《**SENDER**》> を選び、<⦿> を押します。

レシーバー設定



《**RECEIVER**》に設定する

- レシーバーに設定するストロボを操作して設定します。
- センダー設定と同じ操作で <《**RECEIVER**》> を選びます。

⚠️ 通常のストロボ撮影を行うときは、<《**WIRELESS OFF**》> を選んでワイヤレス（センドー／レシーバー）の設定を解除してください。

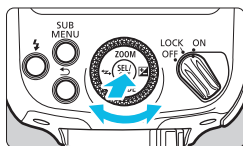
通信チャンネル／電波通信IDの設定

他の人が使用している電波通信によるワイヤレスシステムや、電波（無線）を使用した機器と混信しないように、通信チャンネルと電波通信IDを切り換えることができます。チャンネルとIDは、センドー、レシーバーとも同じ設定にします。

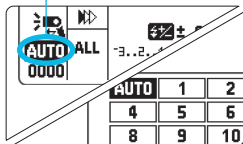
⚠️ 同じ場所に複数の電波通信ワイヤレスシステムを構築するときは、異なる通信チャンネルに設定していても混信することがあるため、チャンネルごとに異なる電波通信IDを設定してください（p.51）。

●通信チャンネル／電波通信IDを設定する

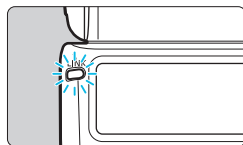
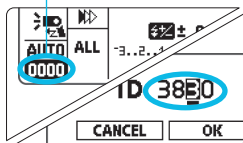
以下の操作で、センドーとレシーバーの通信チャンネルと電波通信IDを設定します。チャンネルとIDは、センドーとレシーバーで同じ設定にします。なお、操作方法はセンドーとレシーバーで共通です。



通信チャンネル



電波通信ID



1 通信チャンネルを設定する

- <◎> を押します。
- <◎> を回してチャンネルの項目を選び、<◎> を押します。
- <◎> を回して <AUTO> または Ch. <1> ~ <15> の中から選び、<◎> を押します。

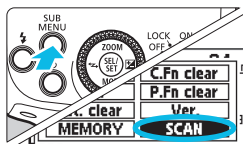
2 電波通信IDを設定する

- <◎> を押します。
 - <◎> を回してIDの項目を選び、<◎> を押します。
 - <◎> を回して設定する位置（桁）を選び、<◎> を押します。
 - <◎> を回して0~9の番号を選び、<◎> を押します。
 - 同じ操作で4桁の番号を設定し、<OK> を選びます。
- ➔ センドーとレシーバーの通信が確立すると、<LINK> ランプが「緑色」に点灯します。

● センダーの通信チャンネルをスキャンして設定する

電波状態をスキャンして、センターの通信チャンネルを自動または手動で設定することができます。チャンネルが「AUTO」に設定されているときは、自動的に電波状態の良いチャンネルに再設定されます。手動設定のときは、スキャン結果を参考にして再設定することができます。

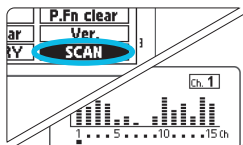
「AUTO」設定状態からスキャン



スキャンする

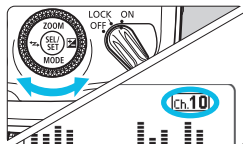
- <SUB MENU> ボタンを押します。
- <ZOOM> を回して <SCAN> を選び、<OK> を押します。
- <OK> を選びます。
- ➔ スキャンが行われ、電波状態の良いチャンネルに再設定されます。

Ch.1～15設定状態からスキャン



1 スキャンする

- <SUB MENU> ボタンを押します。
- <ZOOM> を回して <SCAN> を選び、<OK> を押します。
- <OK> を選びます。
- ➔ スキャンが行われ、電波状態がグラフで表示されます。
- グラフの山が高いチャンネルほど、電波状態が良いことを表しています。



2 チャンネルを設定する

- <ZOOM> を回して、Ch.1～15の中から選びます。
- <ZOOM> を押すと、チャンネルが設定されます。

〈LINK〉ランプについて

〈LINK〉ランプの色で通信状態を確認することができます。

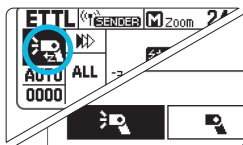
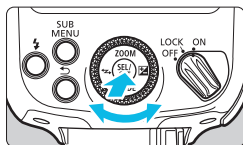
| 色 | 状態 | 内容 | 対処方法 |
|----|----|------|---------------------|
| 緑色 | 点灯 | 通信OK | — |
| 赤色 | 点灯 | 未接続 | チャンネル、IDを確認する |
| | 点滅 | 台数超過 | センター+レシーバーを16台以下にする |
| | | エラー | センター、レシーバーの電源を入れ直す |



- センターとレシーバーの通信チャンネルが異なると、レシーバーは発光しません。ともに「AUTO」に設定するか、同じ番号に設定してください。
- センターとレシーバーの電波通信IDが異なると、レシーバーは発光しません。同じ番号に設定してください。

センターストロボの発光ON/OFF

レシーバーをコントロールするセンターを、ワイヤレスストロボとして発光させるかどうかを設定します。センター発光ONのときは、発光グループAとして発光します。



センター発光ON/OFFを設定する

- 〈●〉を押します。
- 〈◎〉を回してストロボマークの項目を選び、〈●〉を押します。
- 〈◎〉を回してセンター発光ON/OFFを選び、〈●〉を押します。

☞：センター発光ON

☜：センター発光OFF

表示パネル照明について

電波通信ワイヤレス撮影時は、センダーとレシーバー（発光グループ）の充電状態に応じて、センダーの表示パネル照明が点灯／消灯します。

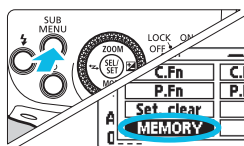
センダーとレシーバーの充電が完了していないときは、センダーの表示パネル照明が点灯します。センダーとレシーバーの充電が完了すると、約12秒後に表示パネル照明が消灯します。

撮影を行いセンダーやレシーバーの充電が切れると、センダーの表示パネル照明が再点灯します。

充電が完了していないセンダーやレシーバー（発光グループ）があるときは、センダーの表示パネルに〈CHARGE〉が表示されます。表示パネルに〈CHARGE〉が表示されていないことを確認するか、表示パネル照明が消灯していることを確認してから撮影してください。

メモリー機能

ワイヤレス設定した内容をセンダー、レシーバーに保存したり、呼び出すことができます。設定内容の保存、呼び出しを行いたいストロボ（センダーまたはレシーバー）を個別に操作します。



1 〈MEMORY〉を選ぶ

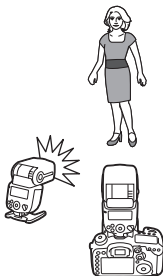
- 〈SUB MENU〉ボタンを押します。
- 〈○〉を回して〈MEMORY〉を選び、〈○〉を押します。

2 設定内容を保存する／呼び出す

- 〈○〉を回して〈SAVE〉（保存）または〈LOAD〉（呼び出し）を選び、〈○〉を押します。
 - 〈OK〉を選びます。
- 設定内容が保存（記憶）されます。または、保存したときの設定内容になります。



ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影



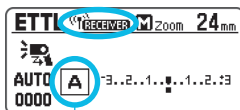
カメラに取り付けた430EX III-RT(センダー)と、レシーバーに設定した430EX III-RTを使った、基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

レシーバーを1灯使った自動調光撮影



1 センダーに設定する

- カメラに取り付けた430EX III-RTを「センドー」に設定します (p.50)。
- 電波通信ワイヤレスセンドー機能を備えた機器をセンドーとして使用することもできます。



発光グループ

2 レシーバーに設定する

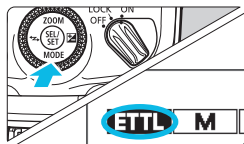
- センダーからワイヤレス制御する430EX III-RTを「レシーバー」に設定します (p.50)。
- 発光グループは、A、B、Cのいずれかに設定してください (p.59)。D、Eに設定すると発光しません。

3 チャンネルとIDを確認する

- センダーとレシーバーの通信チャンネルと電波通信IDが異なるときは、同じ設定にします (p.51、52)。

4 カメラとストロボを配置する

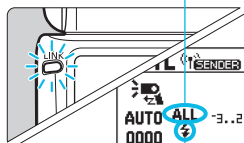
- 46ページに示した範囲内に配置します。



5 発光モードを〈ETTL〉にする

- センダーの〈◀▶〉十字キーの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈◀▶〉を回して〈ETTL〉を選び、〈▶〉を押します。
- レシーバーはセンサーからの制御により、撮影時に〈ETTL〉に自動設定されます。
- 発光グループ制御が〈ALL〉に設定されていることを確認します。

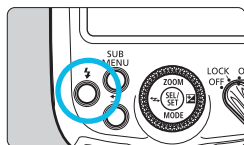
発光グループ制御



レシーバー充電完了

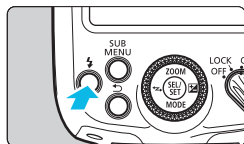
6 通信状態と充電を確認する

- 〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。
- レシーバーの充電が完了すると、AF補助光の投光部が約1秒間隔で点滅します。
- センダーの表示パネルに、レシーバーの充電完了を表す〈⚡〉が点灯していること(〈CHARGE〉が表示されていないこと)を確認します。
- センダーの表示パネル照明については、54ページを参照してください。
- センダーの充電ランプが点灯していることを確認します。



7 作動を確認する

- センダーのテスト発光ボタンを押します。
- ➔ レシーバーが発光します。発光しないときは、通信可能範囲内に配置されているか確認してください (p.46)。



8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。

複数のレシーバーを使った自動調光撮影



より大きな光量が必要なときや、手軽にライティングを行いたいときは、レシーバーの台数を増やして、1つのストロボとして発光させることができます。

レシーバーを追加して、『レシーバーを1灯使った自動調光撮影』(p.55)と同じ手順で撮影します。発光グループは、A、B、Cのいずれかに設定してください(p.59)。D、Eに設定すると発光しません。

レシーバーの台数を増やしたときや、センドー発光ONのときは、すべてのストロボが同じ光量で発光し、光量の合計(和)が標準露出になるように自動制御されます。

- 充電が完了していないセンドーやレシーバー(発光グループ)があるときは、センドーの表示パネルに<CHARGE>が表示されます。<CHARGE>が表示されていないことを確認してから撮影してください。
- <LINK>ランプが赤色のときは、電波通信ができていない状態です。センドーとレシーバーの通信チャンネルと電波通信IDの設定を再度確認してください。同じ設定でつながらないときは、センドーとレシーバーの電源を入れ直してください。

- センドー/レシーバーの照射角は24mmに設定されます。照射角を手動設定することもできます。
- センドーも発光させるときは、手順5でセンドー発光をONにします(p.53)。
- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます(p.36)。
- センドー設定時は、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。
- レシーバーがオートパワーオフ状態になったときは、センドーのテスト発光ボタン(p.56)を押すとレシーバーの電源が入ります。ただし、カメラ側でタイマーが作動しているときは、テスト発光できません。

全自動ワイヤレスの応用撮影

本システムでは、センドーで設定したストロボ調光補正などの内容が、そのままレシーバーに自動設定されるため、レシーバーを操作する必要はありません。以下のワイヤレスストロボ撮影を、通常のストロボ撮影と同じように行うことができます。

- ・ストロボ調光補正 (🔧 / p.24)
- ・ハイスピードシンクロ (🔧 / p.26)
- ・FE ロック (p.25)
- ・マニュアル発光 (p.34、62)

- 🔧 ● レシーバーを直接操作して、レシーバーごとに調光補正、照射角の設定を行うこともできます。
- FEB、マルチ発光機能を備えたセンドーを使用したときは、レシーバーに設定した430EX III-RTを使用して、FEB撮影、マルチ発光を行うこともできます。

センドーストロボについて

センドーを2台以上にすることができます(センドー+レシーバー=最大16台)。センドーを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング(レシーバー)のまま、カメラを替えてワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

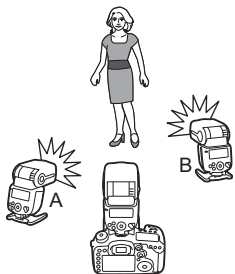
なお、センドーを2台以上にしたときは、電源を入れた順番に応じて<LINK>ランプの色が異なります。センドー1台目(メインセンドー)は「緑色」、センドー2台目以降(サブセンドー)は「オレンジ色」に点灯します。

- 🔧 <LINK>ランプが赤色のときは未接続状態です。通信チャンネル、電波通信IDを確認してから、センドーの電源を1台ずつ入れ直してください。

- 🔧 メインセンドー、サブセンドーの状態に関わらず撮影することができます。

A:B: 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影

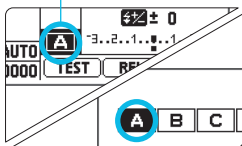
レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影



レシーバーをAとBの2つの発光グループに分け、ライティングバランス（光量比）を調整して撮影することができます。

露出は、発光グループA、Bの光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

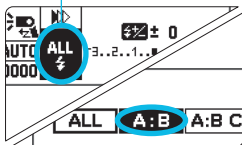
発光グループ



1 レシーバーの発光グループを設定する

- レシーバーを操作して1台ずつ設定します。
- <⊙>を押します。
- <⊙>を回して発光グループの項目を選び、<⊙>を押します。
- <⊙>を回して<A>またはを選び、<⊙>を押します。
- 1台を<A>、もう1台をに設定します。

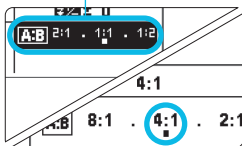
発光グループ制御



2 センダーを<A:B>に設定する

- 手順2～3はセンサーを操作して設定します。
- <⊙>を押します。
- <⊙>を回して発光グループ制御の項目を選び、<⊙>を押します。
- <⊙>を回して<A:B>を選び、<⊙>を押します。

A : B 光量比



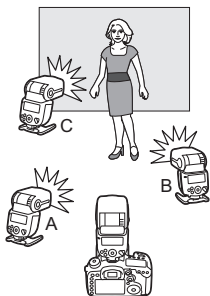
3 A : Bの光量比を設定する

- <⊙> を回してA : Bの光量比の項目を選び、<⊙> を押します。
- <⊙> を回して光量比を設定し、<⊙> を押します。

4 撮影する

- ➔ 設定した光量比でレシーバーが発光します。

レシーバーを3グループに分けた自動調光撮影



発光グループA, Bに、発光グループCを追加することができます。Cは、被写体の背景の影を消すライティングを行いたいときなどに有効です。

基本的な設定方法は、『レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影』と同じです。

1 レシーバーを発光グループCに設定する

- 追加するレシーバーを、前ページの手順1と同じ操作で発光グループ<C>に設定します。

2 センダーを<A:B C>に設定する

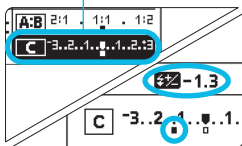
- 前ページの手順2と同じ操作で、センサーの発光グループ制御を<A:B C>に設定します。



3 A : Bの光量比を設定する

- 上記手順3と同じ操作でA : Bの光量比を設定します。

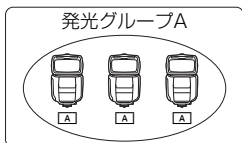
レシーバー C 調光補正量



4 レシーバー C の調光補正量を設定する

- センダーを操作して設定します。
- 必要に応じて設定します。
- $\langle \odot \rangle$ を押します。
- $\langle \odot \rangle$ を回して C の調光補正量の項目を選び、 $\langle \odot \rangle$ を押します。
- $\langle \odot \rangle$ を回して補正量を設定し、 $\langle \odot \rangle$ を押します。

グループ制御について



より大きな光量が必要なときや、高度なライティングを行いたいときは、レシーバーの台数を増やすことができます。追加するレシーバーを、光量を大きくしたい発光グループ (A, B, C のいずれか) に設定するだけです。レシーバーは合計15台まで増やすことができます。

例えば、3台のレシーバーの発光グループを $\langle \mathbf{A} \rangle$ に設定したときは、3台を発光量の大きい1灯のAグループストロボとみなして制御します。

- 発光グループ A, B, C の3グループを発光させるときは、 $\langle \mathbf{A:B C} \rangle$ に設定してください。 $\langle \mathbf{A:B} \rangle$ の設定では発光グループ C は発光しません。
- 発光グループ C を直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

光量比の 8 : 1 ~ 1 : 1 ~ 1 : 8 は、段数換算で 3 : 1 ~ 1 : 1 ~ 1 : 3 (1/2 段ステップ) に相当します。

M: 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

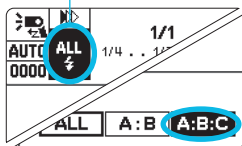
マニュアル発光によるワイヤレス（多灯）撮影です。レシーバー（発光グループ）ごとに発光量を設定して撮影することができます。設定はすべてセNDER側で行います。



1 発光モードを〈M〉にする

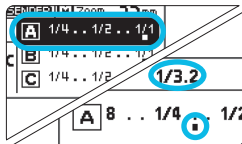
- センダーの〈◇〉十字キーの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈○〉を回して〈M〉を選び、〈○〉を押します。

発光グループ制御



2 発光グループ制御を設定する

- 〈○〉を押します。
- 〈○〉を回して発光グループ制御の項目を選び、〈○〉を押します。
- 〈○〉を回して発光させるグループを選び、〈○〉を押します。
 - 〈ALL〉：全グループ同一発光量
 - 〈A:B〉：A, Bの発光量を設定
 - 〈A:B:C〉：A, B, Cの発光量を設定



3 発光量を設定する

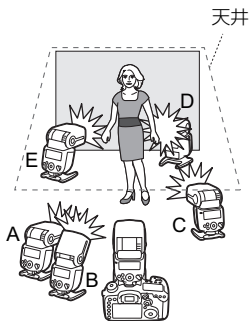
- 〈○〉を回して発光グループの項目を選び、〈○〉を押します。
- 〈○〉を回して発光量を設定し、〈○〉を押します。
- 〈A:B〉〈A:B:C〉のときは、手順3を繰り返して、すべてのグループの発光量を設定します。

4 撮影する

- ➔ 設定した発光量で、各グループが発光します。

ⓘ 〈ALL〉設定時は、レシーバーの発光グループをA, B, Cのいずれかに設定してください (p.59)。D, Eに設定すると発光しません。

Gr: グループごとに発光モードを設定した撮影

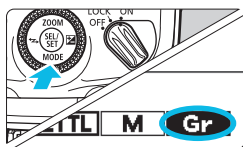


EOS-1D Xなど2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、最大5グループ (A, B, C, D, E) までの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して撮影することができます。

設定できる発光モードは、①E-TTL II/E-TTL自動調光、②マニュアル発光、③外部調光オートです。発光モードが①③のときは、1つのグループで主被写体が標準露出になるように露出制御されます。

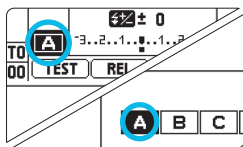
この機能は、ライティングに対する知識と経験が豊富な上級者向けの機能です。

2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X70では、〈Gr〉の発光モードでワイヤレスストロボ撮影を行うことはできません。最大3グループ (A, B, C) での撮影になります (p.60)。



1 発光モードを〈Gr〉にする

- センダーの〈◇〉十字キーの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈Gr〉を選び、〈◎〉を押します。



2 レシーバーの発光グループを設定する

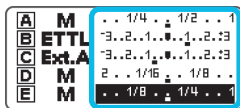
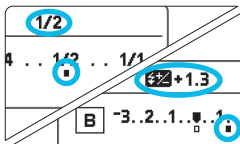
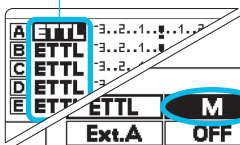
- レシーバーを操作して1台ずつ設定します。
- 〈◎〉を押します。
- 〈◎〉を回して発光グループの項目を選び、〈◎〉を押します。
- 〈◎〉を回して〈A〉〈B〉〈C〉〈D〉〈E〉のいずれかを選び、〈◎〉を押します。
- すべてのレシーバーに発光グループ (A, B, C, D, E) を設定します。

発光グループ全体の調光補正



発光グループ

発光モード



発光量／調光補正量

3 各発光グループの設定を行う

- センダーを操作して、各発光グループの発光モード、発光量または調光補正量を設定します。
- <⊙> を押します。
- <⊙> を回して設定する発光グループを選び、<⊙> を押します。

発光モードの設定

- <⊙> を回して <A> ~ <E> の右横に表示されている発光モードの項目を選び、<⊙> を押します。
- <⊙> を回して発光モードを選び、<⊙> を押します。

発光量／調光補正量の設定

- <⊙> を回して発光量または調光補正量の項目を選び、<⊙> を押します。
- <M> のときは発光量を設定します。<ETTL> <Ext.A> (外部調光オート) のときは、必要に応じて調光補正量を設定します。
- 手順3を繰り返して、すべての発光グループの発光機能を設定します。
- 設定が終わったら <⏪> ボタンを押して手順3の画面に戻ります。
- 手順3の画面で調光補正 <±> の項目を選ぶと、発光グループ全体の調光補正を行うことができます。

4 撮影する

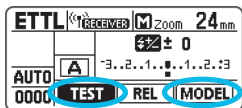
- ➔ 各レシーバーが設定したそれぞれの発光モードで同時に発光します。

- 430EX III-RTがセンドーのときに、発光モードを〈**Ext.A**〉に設定できませんが、この機能は〈**Ext.A**〉に対応したレシーバー（例：600EX-RT）を使用した際に有効です。
- 430EX III-RTは〈**Ext.A**〉に対応していません。そのため、センドーの発光モードが〈**Ext.A**〉のときは、レシーバーに設定された430EX III-RTは発光しません。430EX III-RTをレシーバーで使用するときは、センドーで発光モードを設定する際に、〈**Ext.A**〉に設定しないでください。
- 430EX III-RTがセンドーのときに、発光グループ「A」の発光モードを〈**Ext.A**〉に設定したときは、「センドー発光：ON」に設定しても（p.53）、センドー発光は行われません。
- 発光モードが〈**ETTL**〉〈**Ext.A**〉のときは、1つの発光グループで主被写体が標準露出になるように露出制御されるため、複数の発光グループを主被写体に向けて発光させると、露出オーバーになることがあります。

- 〈**Ext.A**〉については、外部調光オートに対応したストロボの使用説明書を参照してください。
- 発光させたくないグループがあるときは、手順3で発光モードを設定するときに〈**OFF**〉を選びます。
- 発光させるグループは、A、C、Eのように連続してなくても構いません。
- 〈**◎**〉を押して〈**◆**〉十字キーで発光グループを選び、〈**◎**〉を回すだけで、発光量または調光補正量を設定することができます（P.Fn-08／p.88）。

レシーバーからのテスト発光／モデリング発光

電波通信ワイヤレス撮影時に、レシーバーに設定されている430EX III-RTからテスト発光、モデリング発光（p.36）を行うことができます。



〈**TEST**〉または〈**MODEL**〉を選ぶ

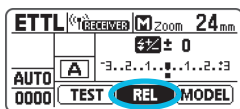
- レシーバーの〈**◎**〉を押します。
 - 〈**◎**〉を回して〈**TEST**〉または〈**MODEL**〉を選び、〈**◎**〉を押します。
- ➔ レシーバーからセンドーに発光信号が送信され、ワイヤレスシステムのテスト発光、モデリング発光が行われます。

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X70では、レシーバーからのモデリング発光はできません。
- モデリング発光に関する注意事項については、36ページを参照してください。
- センダーがC.Fn-02-1に設定されているときは、**<MODEL>**を選んでもモデリング発光は行われません。

📄 センダーが2台以上のときは (p.58)、**<LINK>** ランプが「緑色」に点灯しているメインセンサーに発光信号が送信されます。

レシーバーからのリモートリリース

EOS-1D Xなど2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、電波通信ワイヤレス撮影時に、レシーバーに設定されている430EX III-RTからリモートリリース (リモコン撮影) を行うことができます。



<REL> を選ぶ

- レシーバーの **<◎>** を押します。
- **<◎>** を回して **<REL>** を選び、**<◎>** を押します。
- ➔ レシーバーからセンサーにリリース信号が送信され、撮影が行われます。

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X70では、レシーバーからのリモートリリースはできません。
- AFでピント合わせができないときは撮影は行われません。レンズのフォーカスモードスイッチを **<MF>** にして、手動ピント合わせを行ってからリリースすることをおすすめします。

📄 ● カメラのドライブモードの設定に関わらず、「1枚撮影」でリモートリリースが行われます。

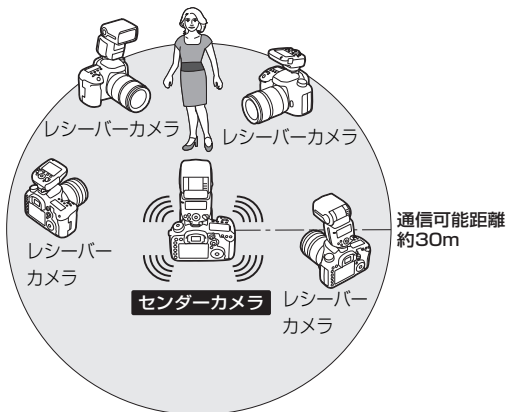
● センダーが2台以上のときは (p.58)、**<LINK>** ランプが「緑色」に点灯しているメインセンサーにリリース信号が送信されます。

電波通信による連動撮影


EOS-1D Xなど2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ（EOS Kiss X70を除く）を使用すると、センダーカメラのリリースに連動してレシーバーカメラを自動リリースさせる「連動撮影」を行うことができます。センダーとレシーバーを合わせて最大16台の連動撮影ができます。被写体を複数のアングルから一斉に撮影したいときに有効です。

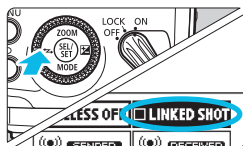
連動撮影を行うときは、電波通信ワイヤレス撮影に対応したストロボ、またはスピードライトトランスミッターをカメラに装着します。

なお、2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X70と組み合わせたときは、「センダーカメラ」としてのみ使用できます。「レシーバーカメラ」としては使用できません。



次ページの操作を行う前に、連動撮影を行うすべてのストロボ、トランスミッターを各カメラに装着してください。なお、他の機器の設定方法については、その機器の使用説明書を参照してください。

 連動撮影機能を設定した430EX III-RTとカメラの組み合わせを、それぞれ「センドーカメラ」「レシーバーカメラ」と呼んでいます。



1 連動撮影に設定する

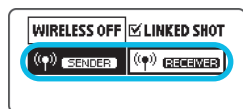
- 〈〉 十字キーの 〈〉 ボタンを押します。
- 〈〉 を回して 〈 LINKED SHOT〉 を選び、〈〉 を押します。

→ 〈 LINKED SHOT〉 の表示に変わります。



2 センダー／レシーバーに設定する

- 〈〉 を回して 〈 SENDER〉 または 〈 RECEIVER〉 を選び、〈〉 を押します。



3 通信チャンネル、電波通信IDを設定する

- 設定方法については、50～53ページを参照してください。



通信チャンネル／電波通信ID

4 カメラの撮影機能を設定する

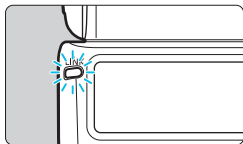
5 すべてのストロボを設定する

- 連動撮影を行うすべてのストロボを、連動撮影の「センドー」または「レシーバー」に設定します。
- 連動撮影を行うトランスミッターがあるときは、同じように設定します。

- 手順2の操作で「レシーバー」から「セNDER」に変更すると、「セNDER」に設定されていた他のストロボ（またはトランスミッター）が自動的に「レシーバー」になります。

6 レシーバーカメラを設置する

- センダーカメラから約30mの範囲内にすべてのレシーバーカメラを設置します。
- レシーバーの〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。



7 撮影する

- センダーの〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認してから撮影します。
- ➔ センダーカメラのリリースに連動して、レシーバーカメラがリリースします。
- ➔ 連動撮影が行われたレシーバーは〈LINK〉ランプが一瞬「オレンジ色」に点灯します。



- 連動撮影を解除するときは、ストロボを1台ずつ操作して、手順1で〈LINKED SHOT〉の状態にします。
- ストロボをカメラに装着せずに、連動撮影用のリモコンとして使用することもできます。セNDERの〈●〉を押して〈REL〉を選ぶと、すべてのレシーバーカメラがリリースします。
- 連動撮影時は、オートパワーオフまでの時間がセNDER、レシーバーともに約5分になります。なお、連動撮影の間隔が5分以上のときは、セNDERとレシーバーの「オートパワーオフ」の設定を、ともに「OFF」に設定してください（C.Fn-01-1/p.83）。

- レシーバーカメラに装着されているレンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、手動ピント合わせで撮影することをおすすめします。AFでピント合わせができないときは、そのレシーバーカメラは連動しません。
- センダーカメラのリリースタイミングよりも、少し遅れてレシーバーカメラがリリースします。まったく同時に撮影することはできません。
- P.Fn-07-1に設定すると (p.88)、連動撮影時にストロボを発光させることができますが、連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。
- [外部ストロボ制御] または [ストロボ制御] の [ストロボの発光] が [しない] に設定されているときは (p.42)、連動撮影はできません。
- P.Fn-07-0設定時に (p.88)、ライブビュー映像を表示した状態で連動撮影を行うときは、センサーカメラのメニューの [LV静音撮影] を [しない] に設定してください。[モード1] [モード2] に設定されていると、レシーバーカメラは連動しません。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなる場合があります。
- 連動撮影機能は、ワイヤレスファイルトランスミッター WFTシリーズの連動撮影と同等の機能です。ただし、WFTシリーズと組み合わせて連動撮影を行うことはできません。なお、リリースタイムラグは、WFTシリーズによる連動撮影とは異なります。

ライブビュー機能を使用した連動撮影について

P.Fn-07-0の設定で以下のカメラと組み合わせ、センサーカメラに設定したときは、ライブビュー状態での連動撮影はできません。

ライブビュー撮影を終了してファインダー撮影状態で連動撮影を行うか、P.Fn-07-1の設定で連動撮影を行ってください。


EOS 8000D、EOS Kiss X8i、EOS Kiss X7i、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5、EOS Kiss X4、EOS Kiss X3、EOS Kiss X2、EOS Kiss F


5

光通信 ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「光通信」ワイヤレスレシーバー機能を使用したストロボ撮影方法について説明しています。

光通信ワイヤレス撮影に必要なアクセサリについては、システム図を参照してください (p.90)。

 カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを**〈P/Tv/Av/M/B〉** (応用撮影ゾーン) にしてください。

-  ● 430EX III-RT/430EX IIIともに、光通信ワイヤレスレシーバー機能を備えています。
- 光通信ワイヤレスレシーバーに設定した430EX III-RT/430EX IIIを、光通信ワイヤレスセンドー機能を備えた機器 (p.91) でワイヤレス制御することができます。
 - 光通信ワイヤレスセンドー機能を備えた機器を「センドー」、ワイヤレス制御される430EX III-RT/430EX IIIを「レシーバー」と呼んでいます。

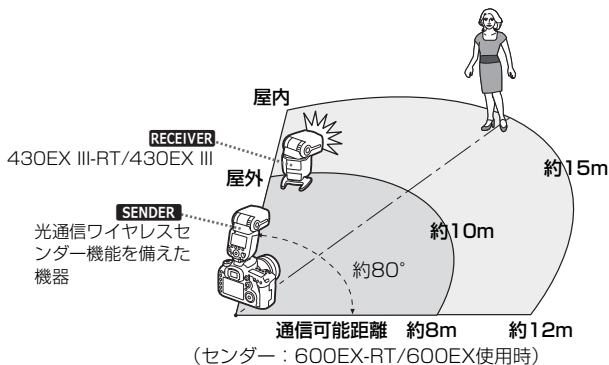
光通信ワイヤレスストロボ撮影

光通信ワイヤレスセンドー機能を備えたキヤノン製の機器と、レシーバーに設定した430EX III-RT/430EX IIIを使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

センドーの設定内容が、ワイヤレス制御される430EX III-RT/430EX III (レシーバー) 側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にレシーバーを操作する必要はありません (単独レシーバー時を除く/p.78)。

光通信によるワイヤレスストロボ撮影方法については、センドー機能を備えた機器の使用説明書を参照してください。

配置と作動範囲 (ワイヤレスストロボ撮影例)



- 通信の妨げになるため、センドーとレシーバーの間に障害物を置かないでください。
- 通信可能距離は使用するセンドーストロボにより異なります。センドーストロボの使用説明書を参照してください。
- 撮影を行う前にテスト発光 (p.18) やテスト撮影を行ってください。

付属のミニスタンド (p.14) を使用してレシーバーを配置します。

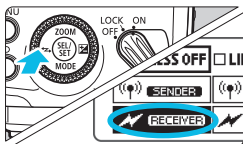


- バウンス機能を利用して (p.28)、レーザーのワイヤレス受信部 (p.10) をセンターに向けます。
- 室内で撮影するときは、通信が壁面反射することにより、多少ラフな配置でも作動することがあります。






ワイヤレス設定

光通信ワイヤレスレーザー機能を利用したストロボ撮影を行うときは、以下の設定を行います。

レーザー設定



〈 RECEIVER〉に設定する

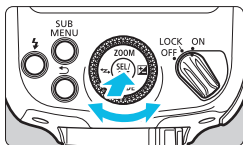
- レシーバーに設定するストロボを操作して設定します。
- 〈〉十字キーの〈〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して〈 RECEIVER〉を選び、〈〉を押します。






通常のストロボ撮影を行うときは、〈**WIRELESS OFF**〉を選んでワイヤレス (レーザー) の設定を解除してください。

通信チャンネルの設定

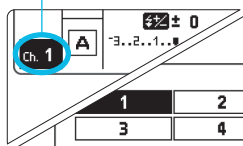
他の人が使用している光通信によるワイヤレスシステムと混信しないように、通信チャンネルを切り換えることができます。チャンネルは、セNDER、レシーバーとも同じ番号に設定します。



通信チャンネルを設定する

- 〈〉を押します。
- 〈〉を回してチャンネルの項目を選び、〈〉を押します。

通信チャンネル

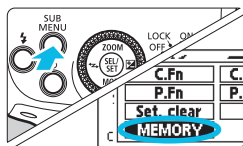


- 〈○〉を回してCh.「**1**」～「**4**」の中から選び、〈○〉を押します。

⚠ センダーとレシーバーの通信チャンネルが異なると、レシーバーは発光しません。同じ番号に設定してください。

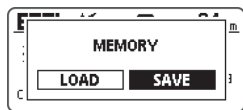
メモリー機能

ワイヤレス設定した内容をレシーバーに保存したり、呼び出すことができます。設定内容の保存、呼び出しを行いたいストロボ（レシーバー）を個別に操作します。



1 〈MEMORY〉を選ぶ

- 〈SUB MENU〉ボタンを押します。
- 〈○〉を回して〈MEMORY〉を選び、〈○〉を押します。



2 設定内容を保存する／呼び出す

- 〈○〉を回して〈SAVE〉（保存）または〈LOAD〉（呼び出し）を選び、〈○〉を押します。
- 〈OK〉を選びます。
- ➔ 設定内容が保存（記憶）されます。または、保存したときの設定内容になります。

ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影

光通信ワイヤレスセンドー機能を備えた機器（センドー）と、レシーバーに設定した430EX III-RT/430EX IIIを使った、基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

光通信ワイヤレスストロボ撮影の詳細、およびセンドーの操作方法などについては、センドー機器の使用説明書を参照してください。

1 センドーに設定する

- センドー機能を備えた機器を、光通信ワイヤレス「センドー」に設定します。



2 レシーバーに設定する

- センドーからワイヤレス制御する430EX III-RT/430EX IIIを「レシーバー」に設定します（p.73）。
- 発光グループは、A、B、Cのどれでも構いません。

3 チャンネルを確認する

- センドーとレシーバーの通信チャンネルが異なるときは、同じ番号に設定します（p.73）。

4 カメラとストロボを配置する

- 72ページに示した範囲内に配置します。

5 発光モードを〈ETTL〉にする

- センドーの発光モードを〈ETTL〉に設定します。
- レシーバーはセンドーからの制御により、撮影時に〈ETTL〉に自動設定されます。
- 発光グループ制御が〈ALL〉に設定されていること（光量比制御が設定されていないこと／**RATIO OFF**）を確認します。



6 充電を確認する

- レシーバーの充電が完了すると、AF補助光の投光部が約1秒間隔で点滅します。
- センダーの充電ランプが点灯していることを確認します。

7 作動を確認する

- センダーからテスト発光を行います。
- レシーバーが発光します。発光しないときは、通信可能範囲内に配置されているか確認してください (p.72)。

8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。

! レシーバーの近くに蛍光灯やパソコンのモニターなどがあると、光源の影響でレシーバーが誤動作して、意図せずに発光することがあります。

- !**
- レシーバーの照射角は24mmに設定されます。照射角を手動設定することもできます。
 - レシーバーがオートパワーオフ状態になったときは、センサーをテスト発光させると、レシーバーの電源が入ります。

全自動ワイヤレスの応用撮影

本システムでは、セnderで設定したストロボ調光補正などの内容が、そのままレシーバーに自動設定されるため、レシーバーを操作する必要はありません。以下のワイヤレスストロボ撮影を、通常のストロボ撮影と同じように行うことができます。

- ・ストロボ調光補正 (F2 / p.24)
- ・FEロック (p.25)
- ・ハイスピードシンクロ (Fn / p.26)
- ・マニュアル発光 (p.34、78)

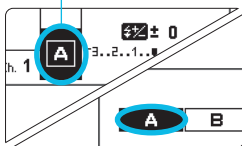


- レシーバーを直接操作して、レシーバーごとに調光補正、照射角の設定を行うこともできます。
- FEB、マルチ発光機能を備えたセnderを使用したときは、レシーバーに設定した430EX III-RT/430EX IIIを使用して、FEB撮影、マルチ発光を行うこともできます。

発光グループの設定

レシーバーに設定した430EX III-RT/430EX IIIを使用して、2グループ (A, B)、3グループ (A, B, C) の撮影を行うときに設定します。

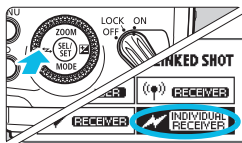
発光グループ



レシーバーの発光グループを設定する

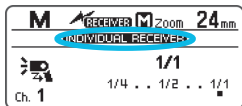
- レシーバーを操作して1台ずつ設定します。
- <⊙> を押します。
- <⊙> を回して発光グループの項目を選び、<⊙> を押します。
- <⊙> を回して <A> <C> のいずれかを選び、<⊙> を押します。

レシーバーを直接操作して、マニュアル発光の手動設定を行うことができます。この機能を「単独レシーバー」といいます。スピードライトトランスミッター ST-E2（別売）を使用して、ワイヤレスマニュアル発光を行うときなどに利用します。



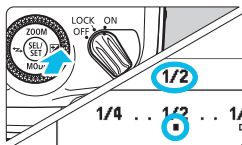
1 単独レシーバーに設定する

- 〈⬇️⬆️〉 十字キーの 〈↔️〉 ボタンを押します。
- 〈⊙〉 を回して 〈⚡️ INDIVIDUAL RECEIVER〉 を選び、〈⊙〉 を押します。
- ➔ 表示パネルに
〈 INDIVIDUAL RECEIVER 〉 が表示されます。
- ➔ 発光モードが 〈M〉 に設定されます。



2 発光量を設定する

- 〈⬇️⬆️〉 十字キーの 〈⏏️〉 ボタンを押します。
- 〈⊙〉 を回して発光量を設定し、〈⊙〉 を押します。



単独レシーバーに設定したレシーバーは、センダーから発光モードの制御は受けません。設定した発光量で常時発光します。

6

ストロボのカスタマイズ

この章では、カスタム機能 (C.Fn)、パーソナル機能 (P.Fn) によるストロボのカスタマイズについて説明しています。

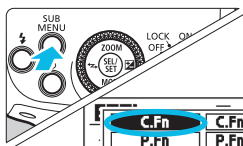


カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードをく**P/Tv/Av/M/B** (応用撮影ゾーン) にしてください。

C.Fn / P.Fn: カスタム/パーソナル機能の設定方法

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。この機能をカスタム機能、パーソナル機能といいます。なお、パーソナル機能は、430EX III-RT/430EX III特有のカスタマイズ機能です。

C.Fn: カスタム機能

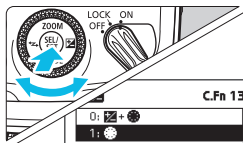


1 カスタム機能画面にする

- <SUB MENU> ボタンを押します。
 - <SEL/SET> を回して <C.Fn> を選び、<SEL/SET> を押します。
- カスタム機能画面が表示されます。

2 設定する項目を選ぶ

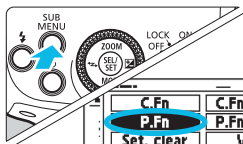
- <SEL/SET> を回して設定する項目（番号）を選びます。



3 設定内容を変更する

- <SEL/SET> を押します。
- 設定項目が表示されます。
- <SEL/SET> を回して希望する設定内容を選び、<SEL/SET> を押します。
 - <L/RT> ボタンを押して設定を終了します。

P.Fn: パーソナル機能




1 パーソナル機能画面にする

- カスタム機能の手順1と同じ操作で <P.Fn> を選び、<SEL/SET> を押します。
- パーソナル機能画面が表示されます。









2 機能を設定する

- カスタム機能の手順2、3と同じ操作でパーソナル機能を設定します。

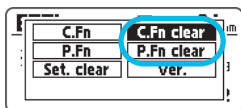
カスタム機能一覧

| 番号 | 項目 | | 参照ページ |
|---------|--|------------------|-------|
| C.Fn-00 |  | 距離表示 | p.83 |
| C.Fn-01 |  | オートパワーオフ | |
| C.Fn-02 |  MODELING | モデリング発光 | |
| C.Fn-08 |  | AF補助光の投光 | p.84 |
| C.Fn-10 |  | レシーバーのオートパワーオフ時間 | |
| C.Fn-11 |  | レシーバーのオートパワーオフ解除 | |
| C.Fn-13 |  | 調光補正の設定方法 | |
| C.Fn-21 |  | 配光特性 | p.85 |
| C.Fn-22 |  | 表示パネルの照明 | |
| C.Fn-23 |  | レシーバーの充電確認 | |

パーソナル機能一覧

| 番号 | 項目 | | 参照ページ |
|---------|---|----------------|-------|
| P.Fn-01 |  | 表示パネルの濃度 | p.86 |
| P.Fn-02 |  | 表示パネル照明色：通常撮影 | |
| P.Fn-03 |  | 表示パネル照明色：センター | |
| P.Fn-04 |  | 表示パネル照明色：レシーバー | |
| P.Fn-05 |  | AF補助光の投光方式 | p.87 |
| P.Fn-06 |  | クイック発光 | |
| P.Fn-07 |  | 連動撮影時の発光 | p.88 |
| P.Fn-08 |  | ダイヤルでの設定変更 | |

カスタム機能／パーソナル機能一括解除



左の画面で〈C.Fn clear〉または〈P.Fn clear〉を選び、〈OK〉を選ぶと、カスタム機能、またはパーソナル機能を一括解除することができます。



- カスタム機能の一括解除を行っても、C.Fn-00は解除されません。
- スピードライト430EX IIIでは、P.Fn-03, 07は表示されません。



カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定／一括解除することができます (p.44)。

C.Fn: カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-00: m/ft (距離表示)

表示パネルの距離表示を、メートル/フィートから選ぶことができます。

0: m (メートル表示)

1: ft (フィート表示)

C.Fn-01: (オートパワーオフ)

ストロボを操作しないで約90秒放置すると、節電のため自動的に電源が切れますが、この機能が働かないようにすることができます。


0: ON (入)

1: OFF (切)




- 連続発光などにより発光部の温度が上昇しているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 電波通信ワイヤレス撮影時のセダーストロボ (p.57)、連動撮影 (p.69) のときは、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。

C.Fn-02: MODELING (モデリング発光)

0:  (する: 絞り込みボタン)

カメラの絞り込みボタンを押すとモデリング発光します。

1:  (する: テスト発光ボタン)

ストロボのテスト発光ボタンを押すとモデリング発光します。

2:  /  (両方のボタンで発光する)

カメラの絞り込みボタン、またはストロボのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

3: OFF (しない)


モデリング発光を禁止します。

C.Fn-08: AF (AF補助光の投光)


0: ON (する)

1: OFF (しない)

ストロボからのAF補助光の投光を禁止します。

 C.Fn-08 設定時に表示されるストロボのマークは、P.Fn-05 (p.87) の設定に応じて変わります。

C.Fn-10: (レシーバーのオートパワーオフ時間)

レシーバーがオートパワーオフ状態になるまでの時間を変更することができます。なお、レシーバーがオートパワーオフ状態になると、表示パネルに  が表示されます。この機能はレシーバーごとに設定します。

0: 60min (60分)

1: 10min (10分)



C.Fn-11: (レシーバーのオートパワーオフ解除)


セクターのテスト発光ボタンを押すと、オートパワーオフ状態になったレシーバーの電源を入れることができます。オートパワーオフ状態のレシーバーが、この機能を受け付ける時間を変更することができます。この機能はレシーバーごとに設定します。




0: 8h (8時間以内)

1: 1h (1時間以内)


C.Fn-13: (調光補正の設定方法)

0:  +  (ボタン+ダイヤル)

1:  (ダイヤルで直接設定)


〈〉十字キーの〈〉ボタンを押さずに、直接〈〉を回して調光補正量や発光量を設定することができます。


C.Fn-21: /=/ (配光特性)


照射角を  (自動設定) に設定したときの、撮影画角に対するストロボ光の配光 (照射角) 特性を変更することができます。


0:  (標準)

撮影画角に最適な照射角が自動設定されます。

1: = (ガイドナンバー優先)

0設定時よりも写真の周辺部分が少し暗くなりますが、光量を優先したい場合に有効です。実際の撮影画角よりも、やや望遠側寄りに照射角が自動設定されます。表示が  になります。

2:  (配光優先)

0設定時よりも撮影距離が少し短くなりますが、写真の周辺部分の光量低下を抑えたい場合に有効です。実際の撮影画角よりも、やや広角側寄りに照射角が自動設定されます。表示が  になります。

C.Fn-22:  (表示パネルの照明)

ボタン、ダイヤルを操作すると表示パネル照明が点灯します。この照明の設定を変更することができます。

0: 12sec (12秒間照明)



1: OFF (照明しない)

2: ON (常時照明)

C.Fn-23:  (レシーバーの充電確認)

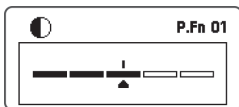
ワイヤレスストロボ撮影時にレシーバーの充電が完了すると、レシーバーのAF補助光の投光部が点滅しますが、この点滅を禁止することができます。この機能はレシーバーごとに設定します。

0: /: (AF補助光点滅とランプ)

1: : (ランプ)

P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容

P.Fn-01: (表示パネルの濃度)



表示パネルの表示濃度を5段階で調整することができます。

P.Fn-02: (表示パネル照明色：通常撮影)

通常撮影（クリップオンストロボ撮影）時の表示パネル照明の色を選ぶことができます。

0：GREEN（緑）

1：ORANGE（オレンジ）

P.Fn-03: (表示パネル照明色：センダー)

電波通信ワイヤレスストロボ撮影、連動撮影：センダー設定時の表示パネル照明の色を選ぶことができます。なお、スピードライト430EX IIIでは、P.Fn-03は表示されません。

0：GREEN（緑）

1：ORANGE（オレンジ）

P.Fn-04: (表示パネル照明色：レーザー)


電波通信／光通信ワイヤレスストロボ撮影、連動撮影：レーザー設定時の表示パネル照明の色を選ぶことができます。

0：ORANGE（オレンジ）


1：GREEN（緑）

P.Fn-05:  /  AF (AF補助光の投光方式)

AF補助光の投光方式を選ぶことができます。

0:  (ストロボ間欠発光方式)

ストロボ間欠発光方式のAF補助光を投光します (p.22)。

1:  (赤外光方式)

中央の測距点 (AFフレーム) に対応した赤外光方式のAF補助光を投光します。被写体をファインダーの中央に置いてピント合わせを行ってください。有効距離は約0.7~8mです。



- 1設定時は中央のAFフレームを任意選択してください。中央以外のAFフレームが任意選択されているときは、AF補助光によるピント合わせはできません (AF補助光は投光されません)。
- カラーフィルター装着時は (p.37)、ストロボ間欠発光によるAF補助光は投光されません。AF補助光が必要なときは1に設定してください。

P.Fn-06:  QUICK (クイック発光)

充電の待ち時間を短くするため、充電ランプが緑色 (フル充電前) の状態で発光させるかどうかを設定することができます。連続撮影時も機能します。

0: ON (する)

1: OFF (しない)



- 連続撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。

P.Fn-07: LINKED SHOT (連動撮影時の発光)

連動撮影時に (p.67)、カメラに装着しているストロボを発光させるかどうかを設定することができます。連動撮影を行うストロボごとに設定します。なお、スピードライト430EX IIIでは、P.Fn-07は表示されません。

0: OFF (しない)

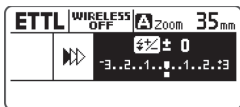
連動撮影時にストロボは発光しません。

1: ON (する)

連動撮影時にストロボが発光します。

⚠ 連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。

P.Fn-08: DIRECT (ダイヤルでの設定変更)



〈**0**〉を押して左図のような設定画面のときに、下記の機能を、〈**0**〉を回すだけで直接設定できるようにするかどうかを設定することができます。

0: OFF (しない)

通常の操作方法です。

1: ON (する)

〈**0**〉十字キーで「調光補正量」「マニュアル発光量」「発光グループ制御」「光量比」「グループ発光時の各グループの発光モード」「レーザーの発光グループ」の項目を選び、〈**0**〉を回すだけで、直接設定することができます。

7

資料

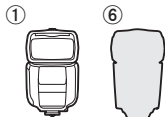
この章では、ストロボシステムやよくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせについて説明しています。

430EX III-RT/430EX IIIのシステム

ワイヤレスストロボ撮影

電波通信

セリダー機能を備えた
スピードライト/
トランスミッター

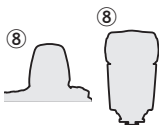


レシーバー機能を備えた
スピードライト

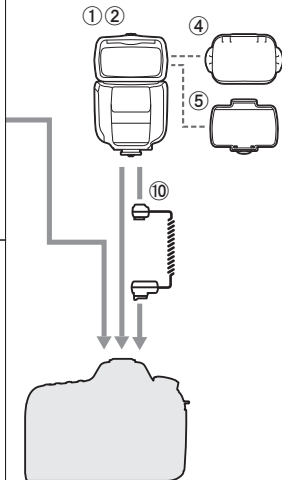
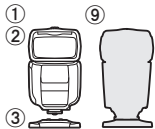


光通信

セリダー機能を備えた
カメラ/スピードライト/
トランスミッター




レシーバー機能を備えた
スピードライト



- ① スピードライト430EX III-RT
- ② スピードライト430EX III
- ③ ミニスタンド (430EX III-RT/430EX IIIに付属)
- ④ バウンスアダプター SBA-E2 (430EX III-RT/430EX IIIに付属)
- ⑤ カラーフィルター SCF-E2 (430EX III-RT/430EX IIIに付属)

- ⑥ **電波通信ワイヤレスセNDER機能**を備えた機器
600EX-RT、ST-E3-RT
- ⑦ **電波通信ワイヤレスレシーバー機能**を備えたスピードライト
600EX-RT
- ⑧ **光通信ワイヤレスセNDER機能**を備えた機器
600EX-RT、600EX、580EX II、580EX、550EX、90EX、MT-24EX、MR-14EX II、MR-14EX、ST-E2、および内蔵ストロボによる光通信ワイヤレスセNDER機能
- ⑨ **光通信ワイヤレスレシーバー機能**を備えたスピードライト
600EX-RT、600EX、580EX II、580EX、550EX、430EX II、430EX、420EX、320EX、270EX II
- ⑩ **オフカメラシューコードOC-E3**
430EX III-RT/430EX IIIをカメラから約60cmまで離して使用することができます。



 ⑨の中で発光グループ (A, B, C) の切り換え機能を備えていないスピードライトを使用したときは、ワイヤレスストロボ撮影時に発光グループAのレシーバーとして使用できます (発光グループB, Cのレシーバーとしては使用できません)。

温度上昇による発光制限について

ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行うと、発光部や電池、電池室付近の温度が高くなる場合があります。繰り返し発光を行うと、過熱による発光部の劣化や損傷を防ぐため、自動的に発光制限が行われます。発光制限中は、温度上昇を表す警告表示が行われ、発光間隔（ストロボ撮影できる間隔）が強制的に約8～25秒になります。

温度上昇警告

ストロボ内部の温度が上昇すると、2段階で警告表示が行われます。

| 表示 | レベル1 (発光間隔：約8秒) | レベル2 (発光間隔：約25秒) |
|---------|---|---|
| マーク |  |  |
| 表示パネル照明 | 赤色（点灯） | 赤色（点滅） |

連続発光回数と休止時間

警告表示までの連続発光回数と、通常のストロボ撮影ができるようになるまでに必要な休止時間の目安は、次のとおりです。

| 機能 | 警告表示（レベル1）までの連続発光回数（目安） | 必要休止時間（目安） |
|---------------|-------------------------|------------|
| 連続発光*（p.15） | 32回以上 | 20分以上 |
| モデリング発光（p.36） | | |

* フル発光時



- レベル1の警告が表示されていなくても、発光部の温度が上昇し始めているときは、発光間隔が長くなります。
- レベル2の警告が表示されたときは、30分以上休止してください。
- 発光回数に関する注意については、15ページ（連続発光）、36ページ（モデリング発光）を参照してください。
- レベル2の警告が表示された状態で、レシーバーからのリモートリリース（p.66）、レシーバーからのテスト発光／モデリング発光（p.65）を行ったときは、発光間隔が約40秒になります。
- 連続発光やモデリング発光を行った直後は、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。やけどの原因になります。電池を交換するときは、温度が低くなっていることを確認してから交換してください。
- C.Fn-22-1 設定時は（p.85）、発光部の温度が上昇しても、表示パネルの赤色照明による警告表示は行われません。

故障かな？と思ったら

「ストロボが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

●通常撮影

電源が入らない

- 電池が正しい向きに入っているか確認してください (p.16)。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください (p.16)。
- 新しい電池に交換してください。

ストロボが発光しない

- 取り付け脚をアクセサリシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください (p.17)。
- 約40秒たっても **CHARGE** の表示が消えないときは、電池を交換してください (p.16)。
- ストロボとカメラの接点部分が汚れているときは、接点 (p.10) を乾いた布などで拭いてください。
- 連続発光を短時間に繰り返し行い、発光部の温度上昇により発光制限が行われているときは、発光間隔が長くなります (p.92)。

電源が勝手に切れる

- ストロボのオートパワーオフ機能が働いています。シャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタンを押してください (p.18)。

露出アンダー／オーバーになる

- 主被写体が暗い／明るいときは、調光補正を行ってください (p.24)。
- 画面内に反射率の高いものがあるときは、FEロックを行ってください (p.25)。
- ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほど、ガイドナンバーが低下します。被写体に近づいて撮影してください (p.26)。

写真の下側が暗い

- 被写体から0.7m以上離れて撮影してください。
- レンズにフードが付いているときは取り外してください。

写真の周辺が暗い

- 照射角の設定を〈**A**〉(自動設定)にしてください (p.32)。
- 照射角を手動設定するときは、撮影画角よりも広い照射角を設定してください (p.32)。
- C.Fn-21-1に設定されていないか確認してください (p.85)。

写真が大きくブレている

- 暗い場所で絞り優先AE〈**Av**〉モードで撮影すると、自動的にスローシンクロ撮影に(シャッター速度が遅く)なります。三脚を使用するか、プログラムAE〈**P**〉または全自動モードで撮影してください (p.21)。なお、[Avモード時のストロボ同調速度]で同調速度を設定することもできます (p.42)。

照射角が自動設定されない

- 照射角を〈**A**〉(自動設定)に設定してください (p.32)。
- 取り付け脚をアクセサリシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください (p.17)。

照射角が手動設定できない

- バウンスアダプターを取り外してください (p.30)。
- ワイドパネルを収納してください (p.33)。

AF補助光が投光されない

- カラーフィルター装着時は、ストロボ間欠発光によるAF補助光は投光されません。P.Fn-05-1に設定してください (p.87)。

機能が設定できない (LOCKED 表示)

- カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/B**〉(応用撮影ゾーン)に設定してください。
- 電源スイッチを〈**ON**〉の位置にしてください。

●電波通信ワイヤレスストロボ撮影

ワイヤレス撮影ができない

- 電波通信機能を備えていない「スピードライト430EX III」では、電波通信によるワイヤレスストロボ撮影はできません。光通信ワイヤレスレーザー機能を活用したストロボ撮影を行ってください。

レーザーが発光しない

- センダーを〈**☑**SENDER〉、レーザーを〈**☑**RECEIVER〉に設定してください (p.50)。
- センダーとレーザーの通信チャンネル、電波通信IDを同じ設定にしてください (p.50~52)。
- レーザーがセンサーの通信可能範囲内にあるか、確認してください (p.46)。
- カメラの内蔵ストロボは、電波通信ワイヤレス撮影のセンサーとしては使用できません。
- 430EX III-RTは〈**Ext.A**〉(外部調光オート)に対応していません (p.65)。

レーザーが発光しないことがある／意図せずフル発光することがある

- 通信チャンネルをスキャンして電波状態の良いチャンネルに設定してください (p.52)。
- センダーからできるだけ見通しの良い場所にレーザーを設置してください。
- レーザー本体の正面部分をセンサーに向けてください。

露出オーバーになる

- 発光グループA, B, Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください (p.61)。
- 発光グループごとに発光モードを設定した撮影のときは、〈**ETTL**〉〈**Ext.A**〉に設定した複数の発光グループを主被写体に向けて発光させないでください (p.65)。

〈TV〉が表示される

- シャッター速度をストロボ同調速度から1段遅くしてください (p.49)。

表示パネル照明が点いたり消えたりする

- センダーとレシーバー（発光グループ）の充電状態に応じて、センターの表示パネル照明が点灯／消灯します。54ページの『表示パネル照明について』を参照してください。


● 連動撮影

標準露出にならない／露出ムラになる

- 連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。発光させるストロボを1台にしたり、セルフタイマーを使って発光するタイミングをずらすことをおすすめします。

● 光通信ワイヤレスストロボ撮影

レシーバーが発光しない

- レシーバーを〈 RECEIVER〉に設定してください (p.73)。
- レシーバーの通信チャンネルをセンターと同じ番号に設定してください (p.73)。
- レシーバーがセンターの通信可能範囲内にあるか、確認してください (p.72)。
- レシーバーのワイヤレス受信部をセンターに向けてください (p.72)。
- センダーとレシーバーの距離が近すぎると、正しく通信できないことがあります。
- カメラの内蔵ストロボをセンターとして使用するときは、カメラの内蔵ストロボを上げて、カメラの [内蔵ストロボ機能設定] の画面で [ワイヤレス機能] の設定を行ってください。

主な仕様

■型式

| | |
|------------|---|
| 型式..... | E-TTL II/E-TTL自動調光 クリップオンタイプストロボ |
| 使用カメラ..... | EOS・Aタイプカメラ (E-TTL II/E-TTL自動調光) * EOS・Bタイプカメラ使用時は自動調光撮影不可 |

■発光部

| | |
|---------------|--|
| ガイドナンバー..... | 約43 (照射角105mm設定時、ISO100・m) * カラーフィルター、バウンスアダプターなし |
| 照射角..... | レンズ焦点距離24~105mm (ワイドパネル使用時 14mm) の撮影画角に対応 ・自動設定 (撮影画角と画面サイズに応じて照射角を自動設定) ・手動設定 |
| バウンス..... | 上: 90°、左: 150°、右: 180° バウンスアダプター (付属品) 使用可能 |
| 閃光時間..... | 通常発光: 約1.8ms以下、クイック発光: 2.3ms以下 |
| 色温度情報通信..... | 発光時のストロボ色温度情報をカメラに送信 |
| カラーフィルター..... | 付属品使用可能 |

■露出制御

| | |
|-----------------|--|
| 露出制御方式..... | E-TTL II/E-TTL自動調光、マニュアル発光 |
| 調光連動範囲..... | 通常発光: 約0.7~23.6m (EF50mm F1.4 使用時・ISO100) クイック発光: 約0.7~13.6m (ガイドナンバー 19.1時) ハイスピードシンクロ: 約0.7~12.8m (1/250秒時) |
| 調光補正..... | 1/3、1/2段ステップ±3段 |
| FEロック..... | カメラのマルチファンクションボタン、FEロック/AEロック ボタンによる |
| ハイスピードシンクロ..... | 可能 * 電波通信ワイヤレス撮影時は、2012年以降に発売された EOS デジタルカメラ (EOS Kiss X70を除く) 使用時の み可能 |
| マニュアル発光..... | 1/1~1/128発光 (1/3段ステップ) |
| モデリング発光..... | カメラの絞り込みボタン、ストロボのテスト発光ボタンに よる |

■ストロボ充電

| | |
|------------------|--|
| 発光間隔 (充電時間)..... | 通常発光: 約0.1~3.5秒、クイック発光: 約0.1~2.5秒 * 単3形アルカリ乾電池使用時 |
|------------------|--|

| | |
|-------------|------------------------------|
| 充電ランプ | 赤色点灯：通常発光可能 緑色点灯：クイック発光可能 |
|-------------|------------------------------|

■AF補助光

| | |
|------------------|--|
| 投光方式 | パーソナル機能でストロボ間欠発光方式、赤外光方式を切り換え可能 |
| ストロボ間欠発光方式 | ファインダー撮影時、およびライブビュー撮影／動画撮影時のクイックAF（クイックモード）に対応 有効距離：中央 約0.7～4m／周辺 約0.7～3.5m |
| 赤外光方式 | ファインダー内の中央測距点（AFフレーム）に対応 有効距離：約0.7～8m |

■電波通信ワイヤレスセNDER／レーザー機能（430EX III-RTのみ）

| | |
|----------------|---|
| 周波数 | 2405MHz～2475MHz |
| 変調方式 | 1次変調：OQPSK、2次変調DS-SS |
| ワイヤレス設定 | セNDER／レーザー |
| 通信チャンネル | オート、Ch.1～15 |
| 電波通信ID | 0000～9999 |
| レーザー制御 | 最大5グループ（A、B、C、D、E）、最大15台 |
| レーザー設定 | 発光グループA、B、C、D、E |
| 通信可能距離 | 約30m * セNDER～レーザー間に障害物、遮蔽物がなく、他の機器との電波干渉がない場合 * 配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがある |
| 光量比制御 | 1：8～1：1～8：1、1/2段ステップ |
| レーザー充電確認 | セNDERの表示パネルにレーザーの充電状態／レーザー充電完了マーク表示、レーザーのAF補助光投光部点滅／充電ランプ点灯 |
| 連動撮影 | 可能 |

■光通信ワイヤレスレーザー機能

| | |
|----------------|-------------------------|
| 通信方式 | 光パルス |
| ワイヤレス設定 | レーザー |
| 通信チャンネル | Ch.1～4 |
| レーザー設定 | 発光グループA、B、C |
| 受信角 | セNDERに対して左右±40°、上下±30° |
| レーザー充電表示 | レーザーのAF補助光投光部点滅、充電ランプ点灯 |

主な仕様

■カスタマイズ機能

| | |
|---------------|------------------------------|
| カスタム機能 | 10種 |
| パーソナル機能 | 430EX III-RT：8種／430EX III：6種 |

■電源

| | |
|---------------------------|--|
| 本体電源 | 単3形アルカリ乾電池 4本 * 単3形ニッケル水素電池使用可能 |
| 発光回数 | 約180～1200回 * 単3形アルカリ乾電池使用時 |
| 電波通信ワイヤレス 撮影可能時間 | 連続約9時間 * センダー発光OFF、単3形アルカリ乾電池使用時 |
| オートパワーオフ | 約90秒放置で電源OFF * 電波通信ワイヤレスセンサー、連動撮影時：約5分 * レシーバー設定時：約60分 |

■大きさ・質量

| | |
|-----------|--|
| 大きさ | 約70.5 (幅) × 113.8 (高さ) × 98.2 (奥行) mm |
| 質量 | 430EX III-RT：約295g／430EX III：約290g (ストロボ本体のみ、電池別) |

■動作環境

| | |
|--------------|---------|
| 使用可能温度 | 0℃～+45℃ |
| 使用可能湿度 | 85%以下 |

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打ち切り後5年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

ガイドナンバー (ISO100・m/約)

通常発光 (フル発光時) / クイック発光

| 照射角 (mm) | 14 | 24 | 28 | 35 |
|------------|-------------------|------|------|------|
| 通常 (フル) 発光 | 14.0 | 22.0 | 24.0 | 28.0 |
| クイック発光 | フル発光時の約1/2~1/3と同じ | | | |

| 照射角 (mm) | 50 | 70 | 80 | 105 |
|------------|-------------------|------|------|------|
| 通常 (フル) 発光 | 33.0 | 40.0 | 41.0 | 43.0 |
| クイック発光 | フル発光時の約1/2~1/3と同じ | | | |

マニュアル発光

| 発光量 | 照射角 (mm) | | | |
|-------|----------|------|------|------|
| | 14 | 24 | 28 | 35 |
| 1/1 | 14.0 | 22.0 | 24.0 | 28.0 |
| 1/2 | 9.9 | 15.6 | 17.0 | 19.8 |
| 1/4 | 7.0 | 11.0 | 12.0 | 14.0 |
| 1/8 | 5.0 | 7.8 | 8.5 | 9.9 |
| 1/16 | 3.5 | 5.5 | 6.0 | 7.0 |
| 1/32 | 2.5 | 3.9 | 4.2 | 5.0 |
| 1/64 | 1.8 | 2.8 | 3.0 | 3.5 |
| 1/128 | 1.2 | 1.9 | 2.1 | 2.5 |

| 発光量 | 照射角 (mm) | | | |
|-------|----------|------|------|------|
| | 50 | 70 | 80 | 105 |
| 1/1 | 33.0 | 40.0 | 41.0 | 43.0 |
| 1/2 | 23.3 | 28.3 | 29.0 | 30.4 |
| 1/4 | 16.5 | 20.0 | 20.5 | 21.5 |
| 1/8 | 11.7 | 14.1 | 14.5 | 15.2 |
| 1/16 | 8.3 | 10.0 | 10.3 | 10.8 |
| 1/32 | 5.8 | 7.1 | 7.3 | 7.6 |
| 1/64 | 4.1 | 5.0 | 5.1 | 5.4 |
| 1/128 | 2.9 | 3.5 | 3.6 | 3.8 |

Bタイプカメラとの組み合わせ

スピードライト430EX III-RT/430EX IIIとBタイプカメラ（A-TTL/TTL自動調光に対応したEOSフィルムカメラ）を組み合わせたときに、使用できる機能と使用できない機能は以下の通りです。

Bタイプカメラに取り付けたときは、ストロボの表示パネルに〈ETTL〉と表示されますが、自動調光撮影はできません。その状態で撮影を行うと、常時フル発光します。

Bタイプカメラで使用できる機能

- マニュアル発光
- 後幕シンクロ

Bタイプカメラで使用できない機能

- E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光
- ストロボ調光補正
- FEロック
- ハイスピードシンクロ
- クイック発光
- モデリング発光
- 電波通信ワイヤレスストロボ撮影
- 連動撮影

電波通信ワイヤレス機能について

■電波通信ワイヤレス機能が使え国や地域について

電波通信ワイヤレス機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、電波通信ワイヤレス機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域で電波通信ワイヤレス機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■モデルナンバー

430EX III-RT : DS401121 (電波通信モジュールモデル : CH9-1216)

- ・ 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- ・ 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- ・ 430EX III-RTには、電波法に基づく認証を受けた電波通信装置が内蔵されており、証明ラベルは電波通信設備に添付されています。

■電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
- ② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。
- ③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。

2.4 DS 2

この表示は、2.4GHz 帯を使用している電波通信機器であることを意味します。

- ・ 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

Complies with
IDA Standards
DB00671

シンガポール IDA 規格の認可済み電波通信モジュールが組み込まれています。

索引

英数字

- 12秒/16秒タイマー.....4
- AF補助光.....22, 81, 84, 87
- Avモード時の
- ストロボ同調速度.....42
- Av (絞り優先AE).....21
- Aタイプカメラ.....2
- Bタイプカメラ.....102
- C.Fn.....80, 81, 83
- E-TTL II/E-TTL
- 自動調光.....20, 21
- E-TTL II (調光方式).....42
- FEロック.....25
- INDIVIDUAL RECEIVER... 13, 78
- LINK.....11, 53, 56
- LOCK.....19
- M (マニュアル発光).....34, 62
- M (マニュアル露出).....21
- P.Fn.....80, 81, 86
- P (プログラムAE).....20
- TTL自動調光.....102
- Tv (シャッター優先AE).....21

あ

- アクセサリシュー.....17
- 後幕シンクロ.....27
- 一括解除.....44, 82
- 色温度情報通信.....22
- 応用撮影
- ゾーン.....4, 23, 39, 45, 71, 79
- 応用** マーク.....4
- オートパワーオフ.....18, 83, 84
- 温度上昇.....92

か

- ガイドナンバー.....101
- カスタム機能 (C.Fn).. 80, 81, 83
- 画面サイズ対応自動ズーム.....22
- カラーフィルター.....14, 37, 90
- 機能設定.....39
- キャッチライト撮影.....29
- 距離表示.....20, 34, 83
- クイック発光.....16, 18, 87
- グループ制御.....61
- グループ発光.....63
- 警告表示.....92
- ケース.....14
- 光量比
- 2灯 (A:B).....59
- 3灯 (A:B:C).....60

さ

- 先幕シンクロ.....42
- システム.....90
- シャッター速度.....21
- 充電.....18
- 充電ランプ.....18, 56, 87
- 照射角.....32, 85
- 初期化.....38, 41
- シンクロ設定.....42
- ズーム.....32
- スキャン.....52
- ストロボ機能設定.....39
- ストロボ作動範囲.....46, 72
- ストロボ制御.....40
- ストロボ同調速度.....42, 49
- ストロボ配置.....46, 72

| | |
|--------------|------------|
| ストロボメータード | |
| マニュアル | 35 |
| 全自動ストロボ撮影 | 20 |
| センターストロボ | 13, 45, 71 |
| センター設定 | 50 |
| センター発光ON/OFF | 53 |

た

| | |
|---------------|----------------|
| 単独レシーバー | 78 |
| 調光方式 | 42 |
| 調光補正 | 24, 42, 58, 77 |
| 調光レベル | 12, 24, 35 |
| 調光連動範囲 | 12, 20 |
| 通常発光 | 16, 101 |
| 通信可能距離 | 46, 48, 72 |
| 通信チャンネル | 50, 73 |
| テスト発光 | 18, 56, 65, 76 |
| 電源スイッチ | 18 |
| 電池 | 16 |
| 電波通信ID | 50, 51 |
| 電波通信ワイヤレス撮影 | 45 |
| グループ発光 | 63 |
| 全自動1灯 | 55 |
| 全自動2灯 (A:B) | 59 |
| 全自動3灯 (A:B C) | 60 |
| マニュアル発光 | 62 |
| 同調速度 | 21, 42, 49 |
| トランスミッター | 67, 90 |

は

| | |
|---------|----------------|
| パーソナル機能 | |
| (P.Fn) | 80, 81, 86 |
| 配光特性 | 85 |
| ハイスピード | |
| シンクロ | 26, 49, 58, 77 |

| | |
|------------|--------------------|
| バウンス | 28 |
| バウンスアダプター | 30 |
| 発光回数 | 16 |
| 発光間隔 | 16, 92 |
| 発光 | |
| グループ | 59, 60, 62, 63, 77 |
| 発光制限 | 92 |
| 発光部 | 10, 28 |
| 発光モード | 12, 20, 34, 42 |
| 発光量 | 34, 62 |
| 光通信ワイヤレス撮影 | 71 |
| 表示パネル | 12 |
| 照明 | 19, 54, 85 |
| 照明色 | 86 |
| 濃度 | 86 |

ま

| | |
|---------|--------|
| マニュアル発光 | 34, 62 |
| メモリー機能 | 54, 74 |
| モデリング発光 | 36, 65 |

ら

| | |
|-----------|----------------|
| リモートリリース | 66 |
| レシーバーストロボ | 13, 45, 71 |
| 充電確認 | 54, 56, 76, 85 |
| レシーバー設定 | 50, 73 |
| 連動撮影 | 13, 67, 88 |
| ロック機能 | 19 |

わ

| | |
|----------|------------|
| ワイドパネル | 33 |
| ワイヤレス撮影 | 45, 71 |
| ワイヤレス設定 | 50, 73 |
| ワイヤレスボタン | 11, 50, 73 |

Canon